

# Functional Setup Managerの使用

## 内容



タイトルおよびコピーライト情報

はじめに

- 1 概要
- 2 実装の計画
- 3 オファリングの構成
- 4 オファリングの機能領域を使用した設定の管理
- 5 実装プロジェクトを使用した設定の管理
- 6 CSVファイル・パッケージを使用した設定の管理
- 7 設定データのエクスポートおよびインポート
- 8 追加機能

用語集

## 内容



- タイトルおよびコピーライト情報
- はじめに
- 1 概要
  - 機能設定マネージャ: 概要
  - 機能設定マネージャの使用者: 考慮する点
  - 機能設定マネージャのコンポーネント: 連携方法
  - 機能設定マネージャの作業領域: 連携方法
  - 実装プロセス: 説明
- 2 実装の計画
  - 実装の計画: 説明
  - サブスクリプションのレビュー: 手順
  - プロモーション・コードの入力: 手順
  - 実装の計画: 手順
- 3 オファリングの構成
  - オファリングの構成: 説明
  - オファリングの構成: 手順
    - ビデオ

## 手順

- アップグレード後の新機能へのオプト・イン: 説明
- アップグレード後の新機能のオプトイン: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- オプト・イン履歴のレビュー: 説明
- オプト・イン履歴のレビュー: 手順
- オフアリング構成に関するFAQ
  - なぜ機能を使用可能にできないのですか。
  - 使用可能にした機能領域または機能のオプト・イン設定が読取り専用になっているのはなぜですか。
  - 親が使用可能になっていないのに使用可能になっている機能領域または機能があるのはなぜですか。
  - 機能領域または機能の「設定」アイコンが表示されないのはなぜですか。
  - 機能領域または機能の「設定」アイコンが無効になっているのはなぜですか。
  - 「設定が必要」列のアイコンが読取り専用なのはなぜですか。
  - 使用中のオフアリングの新機能にオプト・インのボタンがないのはなぜですか。
  - 使用中のオフアリングの新機能のオンライン・ヘルプはどこにありますか。
- 4 オフアリングの機能領域を使用した設定の管理
  - オフアリングの機能領域を使用した設定の管理: 説明
  - オフアリングの機能領域を使用した設定の管理: 手順
    - オフアリングの設定: ビデオ
    - スcopeのあるオフアリングの設定: ビデオ
    - 手順
  - 既存の設定データを更新するタスクへのアクセス: 手順
  - オフアリングの機能領域を使用した設定の管理に関するFAQ
    - 設定しようとしているオフアリングがページ・ヘッダー・メニューに表示されないのはなぜですか。
    - 自分のオフアリングに設定しようとしている機能領域が、「設定」ページの機能領域のリストに表示されないのはなぜですか。
    - 関連する機能領域がわからない場合、タスクをどのように探せばよいですか。
- 5 実装プロジェクトを使用した設定の管理
  - 実装プロジェクトを使用した設定の管理: 説明
  - 実装プロジェクトを使用した設定の管理: 手順
    - ビデオ
    - 手順
  - 設定タスクの割当: 手順
  - 割当て済タスクを使用した設定データの入力: 説明
  - 割当て済タスクを使用した設定データの入力: 手順
    - ビデオ
    - 手順
  - 実装の進捗のモニタリング: 説明
  - 実装の進捗のモニタリング: 手順
  - 実装プロジェクトを使用した設定の管理に関するFAQ
    - 最近使用可能にした機能領域または機能のタスクが実装プロジェクトで表示されないのはなぜですか。
    - 実装プロジェクトの作成にどのオフアリングを使用するかに関係なく、実装プロジェクトにい

くつかの共通タスクが含まれるのはなぜですか。

- 複数の実装プロジェクトで設定データを使用する場合、共通タスクで設定データが複製されますか。
- 実装プロジェクトを使用して入力する設定データのタイプを参照するにはどうすればよいですか。
- データの入力後に割当済タスクのリストに戻ったときに、タスクが完了済として表示されないのはなぜですか。
- すでに実行し、完了として設定した共通タスクが、複数の実装プロジェクトのタスクのすべてのインスタンスに完了として表示されないのはなぜですか。
- データ入力を開始した後で実装プロジェクトのタスク・リストを変更するとどうなりますか。
- 実装固有のレポートを表示するにはどうすればよいですか。

- 6 CSVファイル・パッケージを使用した設定の管理

- CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 説明
- CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポートの自動化

- 7 設定データのエクスポートおよびインポート

- 設定データのエクスポートとインポート: 概要
- 設定データのエクスポートおよびインポート: 説明
- 設定データのレビュー: 説明
- テスト環境から実稼働環境への設定データの移行: ベスト・プラクティス
- オフラインまたは機能領域ごとの設定データのエクスポートおよびインポート: 説明
- オフラインまたは機能領域を使用した設定データのエクスポート: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- オフラインまたは機能領域を使用した設定データのインポート: 手順
  - オフライン設定のインポート: ビデオ
  - インポート中のオフライン設定データの比較: ビデオ
  - 手順
- オフラインまたは機能領域を使用した設定データの比較: 手順
- 実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポートおよびインポート: 説明
- 実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポート: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- 実装プロジェクトを使用した設定データのインポート: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- 実装プロジェクトを使用した設定データの比較: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- 設定データ比較結果: 説明
- 設定データ・レポート: 説明
- 設定データ・レポートの生成: 手順
  - ビデオ
  - 手順
- エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明

- 設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明
- 設定データのエクスポートおよびインポートに関する**FAQ**
  - オフライン設定データのインポート中またはエクスポート中に発生したエラーを表示および印刷するにはどうすればよいですか。
  - インポート・プロセスが「ユーザー処理要」のステータスで停止しているのはなぜですか。
  - ビジネス・オブジェクトをエクスポートから除外するにはどうすればよいですか。
  - 構成パッケージの一部のビジネス・オブジェクトのスコープ値が事前に選択されているのはなぜですか。
  - 送信したエクスポートまたはインポート・プロセスを取り消すにはどうすればよいですか。
  - 最近作成した構成パッケージを変更できないのはなぜですか。
- 8 追加機能
  - 設定構成のコピー: 説明
  - 設定構成のコピー: 手順
  - タスクの検索: 考慮事項
  - タスクの検索: 手順
  - サードパーティ・アプリケーションの登録: 手順
- 用語集



# Functional Setup Managerの使用



## Oracle Applications Cloud Functional Setup Managerの使用

19A

部品番号F14664-01

Copyright c 2011-2018, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

原著者: P. S. G. V. Sekhar

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

**U.S. GOVERNMENT END USERS:**Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs.No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェア

を危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、**Oracle Corporation**およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

**Oracle**および**Java**はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

**Intel**、**Intel Xeon**は、**Intel Corporation**の商標または登録商標です。すべての**SPARC**の商標はライセンスをもとに使用し、**SPARC International, Inc.**の商標または登録商標です。**AMD**、**Opteron**、**AMD**ロゴ、**AMD Opteron**ロゴは、**Advanced Micro Devices, Inc.**の商標または登録商標です。**UNIX**は、**The Open Group**の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と**Oracle Corporation**との間の契約に定めがある場合を除いて、**Oracle Corporation**およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

このドキュメントで使用されている事業所名は架空のものであり、現在または過去に実在する実際の会社を特定するためのものではありません。



# Functional Setup Managerの使用




## はじめに

ここでは、アプリケーションを使用する際に役立つ情報ソースについて説明します。

## Oracle Applicationsの使用

### Applicationsヘルプの使用

アプリケーションでヘルプにアクセスするには、ヘルプ・アイコン  を使用します。ページにヘルプ・アイコンが表示されていない場合は、グローバル・ヘッダーにある自分のユーザー・イメージまたは名前をクリックして「ヘルプ・アイコンの表示」を選択します。ヘルプ・アイコンがないページもあります。[Oracle Applicationsヘルプ](#)にもアクセスできます。

 **視聴:** このビデオ・チュートリアルでは、ヘルプのを見つけ方とヘルプ機能の使用方法について説明します。

[Applicationsヘルプの使用](#)も参照してください。

## その他のリソース

- コミュニティ: [Oracle Cloud Customer Connect](#)を使用して、オラクル社のエキスパート、パートナ・コミュニティおよび他のユーザーから情報を得ることができます。
- ガイドおよびビデオ: [Oracle Help Center](#)にアクセスしてガイドおよびビデオを参照できます。
- トレーニング: [Oracle University](#)でOracle Cloudのコースを受講してください。

# 表記規則

このガイドで使用されるテキスト表記規則を次の表に示します。

規則	意味
太字	太字は、ユーザー・インタフェース要素、ナビゲータ・パス、または入力する値や選択する値を示しません。
固定幅フォント	固定幅フォントは、ファイル名、フォルダ名、ディレクトリ名、コードの例、コマンドおよびURLを示します。
→	右矢印記号は、ナビゲータ・パスの要素を区切ります。

## ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、[Oracle Accessibility ProgramのWebサイト](#)を参照してください。

このガイドに含まれるビデオは、このガイドで使用可能なテキストベースのヘルプ・トピックの代替メディアとして提供するものです。

## オラクル社への問合せ

### Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、[My Oracle Support](#)を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は[My Oracle Support](#)か、聴覚に障害のあるお客様は[Accessible Oracle Support](#)を参照してください。

### ご意見およびご提案

Oracle Applicationsヘルプやガイドに関するフィードバックをお寄せください。Eメールの宛先は[oracle\\_fusion\\_applications\\_help\\_ww\\_grp@oracle.com](mailto:oracle_fusion_applications_help_ww_grp@oracle.com)となります。





# Functional Setup Managerの使用



## 1 概要

この章の内容は次のとおりです。

- 機能設定マネージャ: 概要
- 機能設定マネージャの使用者: 考慮する点
- 機能設定マネージャのコンポーネント: 連携方法
- 機能設定マネージャの作業領域: 連携方法
- 実装プロセス: 説明

## 機能設定マネージャ: 概要

Oracle Functional Setup Managerは、機能管理者がOracle Applications Cloudの実装と保守を管理するための、エンドツーエンドの統合プロセスを提供します。

機能設定マネージャには次の機能があります。

- 標準化されたアプリケーション構成および設定環境
- 最適な構成を行うための機能オプト・イン
- 設定を管理するための柔軟なプロセス:
  - 機能領域別に設定する都度採用アプローチ
  - 設定を管理する実装プロジェクト
  - ファイル・アップロードによる設定データの一括入力
- エンドツーエンドの設定要件を満たすためのガイド付きタスク・リスト
- 環境間で設定データを移行するためのエクスポートおよびインポート・サービス
- 設定データに関する包括的レポート

# 機能設定マネージャのユーザー: 考慮する点

機能オプト・インの構成と設定データの管理を担当するビジネス・ユーザーが、機能設定マネージャのプライマリ・ユーザーです。

## セキュリティ・アクセス

アプリケーション実装コンサルタントのジョブ・ロールは、機能設定マネージャに関連するアクティビティすべてを実行できる、フル・アクセス権限を持ちます。その他のユーザーの場合は、特定の設定アクティビティを実行するのに必要なロールや権限に加えて、機能設定ユーザーのロールも必要です。

機能設定マネージャのセキュリティ要件の詳細は、**Oracleヘルプ・センター(docs.oracle.com)**のクラウドのドキュメントに関するページで、『**Oracle Applications Cloud共通機能のセキュリティ・リファレンス**』ガイドを参照してください。

### 関連項目

- [Oracle Applications Cloud共通機能のセキュリティ・リファレンス](#)

# 機能設定マネージャのコンポーネント: 連携方法

実装では、オフリング、機能領域、機能、および設定タスクが連携します。

## オフリング

オフリングは、**Oracle Applications Cloud**がサポートするビジネス・プロセスのコレクションを表します。**Oracle Cloud**の各サブスクリプションで、1つ以上のオフリングを使用するライセンスが付与されます。これらのオフリングは、すべての実装の開始点となります。オフリングは複数の機能領域および機能で構成されます。

## 機能領域

機能領域は、その親オフリング内の1つ以上のビジネス・サブプロセスおよびアクティビティを表します。オフリングのコア操作を表す場合も、ビジネスに関連する、または関連しない、オプションのアクティビティを表す場合もあります。オフリングを使用可能にしてその実装を開始すると、コア機能領域も自動的に使用可能になります。オプションの機能領域にオプト・インして使用可能にすることも、オプト・アウトすることもできます。機能領域をより小さな機能領域に分割して階層を作成すると、一度に1ステップずつオプト・インする対象を決めるのに便利です。一部の機能領域は、複数のオフリングに適用できます。共有の機能領域を設定すると、別の親オフリングの実装時に再度設定する必要がありません。しかし、次に他の親を実装するときに、対応が必要なオフリング固有タスクがあるかどうかを確認することをお勧めします。

## 機能

機能は、機能領域に適用可能なオプションのビジネス・プラクティスまたはビジネス方法です。機能領域と同様に、ビジネス・プロセスの要件に応じて、機能をオプト・インするかオプト・アウトするかを決定できます。機能は、次の3種類のいずれかになります。

- 「はい」または「いいえ」: 単一のチェック・ボックスで表され、オプト・インするかオプト・アウトするかを決定できます。オプト・インする場合はチェック・ボックスを選択し、オプト・アウトする場合は選択を解除します。
- 単一選択: 複数のオプションがあるが、1つのオプションのみ選択できます。ビジネス・プロセスに適用するオプションを選択します。
- 複数選択: 複数のオプションがあり、複数のオプションを選択できます。いずれのオプションにもチェック・ボックスがあります。適切なオプションを選択して、ビジネス・プロセスに適用するものをすべて選択します。

## 設定タスク

設定タスクは、オフリングの設定に必要な作業と、そのオフリングが表すビジネス・プロセスおよびアクティビティを表し、それらをトランザクション処理に使用できるようにします。オフリングの実装時に、これらのタスクを実行して設定データを入力します。

オフリングと機能領域の設定要件を表すタスクがタスク・リストにグループ化され、階層構造に編成されます。たとえば、1つのオフリングのすべての設定タスクがタスク・リストにグループ化され、そのオフリング内の機能領域の設定を表すサブタスク・リストも含まれます。これにより、互いに関連する設定データを把握しやすくなり、設定の管理に役立ちます。

## 機能設定マネージャの作業領域: 連携方法

「自分の企業」作業領域と「設定および保守」作業領域を使用して、機能オプト・インの管理とサブスクリプションオフリングの設定を行います。

### 「自分の企業」作業領域グループ

次の作業領域は「自分の企業」作業グループに含まれます。

- オフリング
- 新機能
- 企業
- サブスクリプション

## オフリング

この機能領域には、使用可能なオフリングがすべて表示されます。実装の準備が整ったら、サブスクリプションオフリングをレビューし、オプト・インします。**Oracle Applications Cloud**は、関連するオフリングおよびそれらの関連機能を使用可能にしてオプト・インした後でのみ、使用できます。これは、企業で必要とされる機能に従つ

てOracle Applications Cloudを構成し、関連しない機能は除外するのに役立ちます。オファリングの摘要と関連文書をレビューして、作業を開始します。これは、オプト・インする機能と実装の計画方法を決めるのに役立ちます。

## 新機能

この作業領域には最新のリリース・バージョンで導入された新しい機能が示され、Oracle Applications Cloudの新機能を把握するのに役立ちます。アップグレード後にはこのページをレビューして、新たに導入された機能を確認し、それらの機能をオプト・インするかどうかを決めてください。

## 企業

この作業領域では、ユーザーのOracle Applications Cloudに関連する企業固有の情報を入力できます。

## サブスクリプション

この作業領域には、ユーザーのOracle Applications Cloudのサブスクリプションが表示されます。

# 実装プロセス: 説明

Oracle Applications Cloudの機能実装は、通常、次の手順で実行します。

- プラン
- 構成
- 設定
- デプロイ
- 保守

## プラン

実装するオファリングを識別します。オプト・インする機能領域および機能を評価し、それらの設定要件に従って準備します。

詳細は、『機能設定マネージャの使用』ガイドの「計画と実装」の章を参照してください。

## 構成

ビジネス要件に最も適したオファリング、機能領域、および機能を使用可能にして、それらにオプト・インします。

詳細は、『機能設定マネージャの使用』ガイドの「オファリングの構成」の章を参照してください。

## 設定

使用可能にしたオフリングおよび機能領域に必要な設定データを、設定タスクを使用して入力します。通常は、トランザクション・プロセスをテスト環境で設定および確認してから、実稼働環境でのトランザクションを開始します。

詳細は、『機能設定マネージャの使用』ガイドの次の各章を参照してください。

- オフリング設定の管理
- 実装プロジェクトを使用した設定の管理
- 代替プロセスを使用した設定の管理

## デプロイ

確認済の設定データをテスト環境から実稼働環境に移動し、すべてのユーザーにデプロイして、トランザクション・プロセスを開始します。

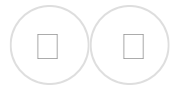
詳細は、『機能設定マネージャの使用』ガイドの「設定データのエクスポートとインポート」の章を参照してください。

## 保守

時間の経過に伴ってビジネス要件が変化した場合は、必要に応じて、設定データを更新するか、機能領域および機能の構成にオプト・インします。

### 関連項目

- [Oracle Applications Cloud Functional Setup Managerの使用](#)



# Functional Setup Managerの使用



## 2 実装の計画

この章の内容は次のとおりです。

- 実装の計画: 説明
- サブスクリプションのレビュー: 手順
- プロモーション・コードの入力: 手順
- 実装の計画: 手順

### 実装の計画: 説明

サブスクライブ済Oracle Applications Cloudの実装を計画するには、実装するオフリングを識別します。機能設定マネージャでは、オフリングの機能と設定要件を理解するのに役立つドキュメントが提供されます。これらのドキュメントをレビューしてから、関連するオフリングの実装に必要なデータを準備してください。

### サブスクリプションのレビュー: 手順

この手順では、Oracle Cloud Applicationsのサブスクリプション情報をレビューする方法を示します。この手順を実行するには、Oracle Fusion Applicationsオフリングの構成権限(ASM\_CONFIGURE\_OFFERING\_PRIV)が必要です。

### サブスクリプションのレビュー

Oracle Cloud Applicationsのサブスクリプション情報をレビューするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「自分の企業」→「サブスクリプション」作業領域をクリックします。
2. 「サブスクリプションのレビュー」ページで、「表示」メニューの「サブスクライブ済」を選択してライセンス済サブスクリプションを表示するか、「すべて」を選択してOracle Cloud Applicationsで使用可能なすべてのサブスクリプションを表示します。

## プロモーション・コードの入力: 手順

この手順では、プロモーション・コードを入力してオフリングの機能領域または機能をアクティブ化する方法を示します。この手順を実行するには、Oracle Fusion Applicationsオフリングの構成権限(ASM\_CONFIGURE\_OFFERING\_PRIV)が必要です。

### プロモーション・コードの入力

オフリングの機能領域または機能をアクティブ化するプロモーション・コードを与えられている場合は、次の手順に従ってそれを入力します。

1. 「ナビゲータ」→「自分の企業」→「サブスクリプション」作業領域をクリックします。
2. 「サブスクリプションのレビュー」ページで、「プロモーション・コードの入力」をクリックします。
3. 「プロモーション・コードの入力」ダイアログ・ボックスにプロモーション・コードを入力し、「保存してクローズ」をクリックします。

入力したプロモーション・コードが「サブスクリプションのレビュー」ページにリストされます。

## 実装の計画: 手順

オフリングのページを使用して、オフリングのオプト・イン構成や設定要件を確認します。設定情報をレビューするには、アプリケーション・オフリングのレビュー権限(ASM\_REVIEW\_APPLICATIONS\_OFFERINGS\_PRIV)が必要です。

### 設定情報のレビュー

設定情報にアクセスしてレビューするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「自分の企業」→「オフリング」作業領域をクリックします。
2. 「オフリング」ページで、リストを調べて、実装するオフリングを選択します。オフリングの概要を読むことができます。
3. 「関連文書」をクリックして、次の情報にアクセスします。
  - 関連付けられた機能レポート: このレポートには、オフリングに関連付けられている機能領域および機能の一覧が表示されます。
  - 設定タスク・リストおよびタスク・レポート: このレポートには、オフリングを正常に実装するために完了する必要があるタスク・リストおよびタスクの一覧が表示されます。

- 関連ビジネス・オブジェクト・レポート: このレポートには、オフリングの実装に必要なすべての設定データが表示されます。オフリングに属する設定タスクに関連付けられているすべてのビジネス・オブジェクトのリストが提供されます。
- 関連エンタープライズ・アプリケーション・レポート: このレポートには、オフリングの機能ページおよびWebサービスで使用されるエンタープライズ・アプリケーションの一覧が表示されます。

## 関連項目

- オフリングの構成



[About Oracle](#) | [Contact Us](#) | [Legal Notices](#) | [Terms of Use](#) | [Your Privacy Rights](#) |  
Copyright © 2011, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.



# Functional Setup Managerの使用



## 3 オファリングの構成

この章の内容は次のとおりです。

- オファリングの構成: 説明
- オファリングの構成: 手順
- アップグレード後の新機能へのオプト・イン: 説明
- アップグレード後の新機能のオプトイン: 手順
- オプト・イン履歴のレビュー: 説明
- オプト・イン履歴のレビュー: 手順
- オファリング構成に関するFAQ

### オファリングの構成: 説明

実装用にオファリングを構成するには、ビジネス運営に関連する機能領域と機能にオプト・インします。オプト・イン構成を開始するには、まずオファリングを使用可能にします。オファリングとその機能領域は階層形式で表示されるため、オプト・インする対象を段階的に確認できます。オファリングを使用可能にすると、そのオファリングの主要な機能を表すすべての機能領域および機能も自動的に使用可能になります。オプト・インするオプションの機能領域および機能を決定するには、それらを具体的に使用可能にします。

オファリングの初期実装後、オプト・イン構成を変更して他の機能領域または機能を後で使用可能にする必要がある場合は、同じ手順に従ってそれらを使用可能にします。

対象となるビジネス運営によっては、使用可能にされた機能領域や機能のオプト・イン選択がロックされ、その選択を変更できない場合があります。

# オフリングの構成: 手順

## ビデオ

- ▶ **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、初期使用のためにオフリングを設定する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

## 手順

オフリングを有効にして、実装する予定のサービスと一致するように機能を変更します。オフリング内の現在の機能領域および機能をレビューして変更を加えることができます。これらのタスクを実行するには、**Oracle Fusion Applications** オフリングの構成権限 (`ASM_CONFIGURE_OFFERING_PRIV`) が必要です。

## オフリングの有効化

オフリングを有効にする手順は、次のとおりです。

1. 「ナビゲータ」 → 「自分の企業」 → 「オフリング」 作業領域をクリックします。
2. 「オフリング」 ページで、実装するオフリングを選択します。
3. 「オプトイン機能」 ボタンをクリックします。
4. 「オプトイン」 ページで、機能階層をレビューします。「使用可能」列のチェック・ボックスを選択し、ビジネス運営に適したオフリングおよび機能領域をオプト・インします。
5. 使用可能にしたオフリングまたは機能領域の「機能」列にある「機能」アイコンをクリックして、該当する機能を使用可能にします。
6. 「機能の編集」 ページで、次を実行します。
  - 「「はい」または「いいえ」」機能を有効にするには、「使用可能」列のチェック・ボックスを選択します。
  - 単一選択または複数選択の機能を有効にするには、「使用可能」列の「機能」アイコンをクリックして必要な選択を行います。
  - 「使用可能」チェック・ボックスを選択できないためにオプトイン・タスクを使用して機能を有効にするには、「オプトイン・タスク」列のアイコンをクリックします。
7. 「完了」をクリックして「オプトイン」ページに戻ります。
8. 「完了」をクリックして「オフリング」ページに戻ります。

実装するオフリングごとに、これらのステップを繰り返します。この手順を使用して、使用可能にしたオフリングの機能領域または機能のオプトイン構成を変更できます。

## アップグレード後の新機能へのオプト・イン: 説明


実装したオフリング用の新しい機能領域や機能が、**Oracle Applications Cloud**の後の改訂で追加されることがよくあります。「新機能」作業領域を使用して、アプリケーションの最新のアップグレードで導入された機能を確認

し、それらにオプト・インするかどうかを決定できます。

使用可能にしたオファリングすべてについて、またはその1つのみについて、新しい機能領域や機能を確認できます。機能領域または機能ごとに、そのオプト・イン・ステータスを表示し、設定が必要かどうかを確認できます。また、追加のヘルプ・トピックにアクセスして詳細を確認することも可能です。

## アップグレード後の新機能のオプトイン: 手順

### ビデオ

-  **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、新しい改訂にアップグレードされたOracle Applications Cloudの新しい機能領域や機能をレビューする方法およびオプト・インする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

「新機能」ページを使用して、新しい機能領域や機能をレビューし、オプト・インします。

新しい機能領域や機能にオプト・インするには、次の権限が必要です。

- アプリケーション・オファリングのレビュー(ASM\_REVIEW\_APPLICATIONS\_OFFERINGS\_PRIV)
- Oracle Fusion Applicationsオファリングの構成(ASM\_CONFIGURE\_OFFERING\_PRIV)

### オプト・イン

新しい機能領域や機能にオプト・インするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「自分の企業」→「新機能」をクリックします。
2. 「新機能」ページで、使用可能にしたオファリングをメニューから選択して、そのオファリングの最新の改訂で使用可能になった新しい機能領域および機能をレビューします。
3. 新しい機能領域または機能ごとに次の処理を実行します。

- 「詳細」を使用して追加のヘルプ・トピックを見つけます。

**ヒント:** 「詳細」列が表示されない場合は、グローバル・ヘッダーに移動し、ユーザー・イメージまたは名前をクリックして「ヘルプ・アイコンの表示」を選択します。

- 「使用可能」列を選択してオプト・イン・ステータスを表示します。チェック・マークが付いているものは、すでに使用可能になっています。
  - 「設定が必要」列を使用して、設定が必要かどうかを確認し、それによって計画します。
4. いずれかの機能領域または機能にオプト・インすることを決定した場合は、「オプトインに進む」アイコンをクリックします。新しい機能領域の場合は、オプト・イン・ページを開きます。新しい機能の場合は、機能の編集のページを開きます。

**注意:** この手順を実行するには、Oracle Fusion Applicationsオファリングの構成権限(ASM\_CONFIGURE\_OFFERING\_PRIV)が必要です。

5. 「使用可能」チェック・ボックスを選択します。複数選択の機能の場合は、該当するものを選択します。「使用可能」チェック・ボックスを選択できない場合、「オプトイン・タスク」列のアイコンをクリックして、オプトイン・タスクを使用して機能を有効にします。
6. 「完了」をクリックして「新機能」ページに戻ります。

## オプト・イン履歴のレビュー: 説明

オプト・イン構成は設定プロセスとトランザクション・プロセスの動作に直接影響するため、それらの変更に関する履歴はすべて保持されます。「オプトイン履歴」ページでこの情報をレビューできます。

アプリケーションに予期しない動作変更が見られた場合は、オプト・イン履歴をレビューして次のことを確認できます。

- 変更を行った人
- 変更が行われた日
- オプト・イン選択の変更方法

## オプト・イン履歴のレビュー: 手順

オプト・インの履歴ページを使用して、オプト・イン構成の変更履歴をレビューできます。この手順を実行するには、**Oracle Fusion Applications** オファリングの構成権限(**ASM\_CONFIGURE\_OFFERING\_PRIV**)が必要です。

### オプト・イン変更履歴のレビュー

オプト・イン構成の変更履歴をレビューするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「自分の企業」→「オファリング」作業領域をクリックします。
2. 「オファリング」ページで、オプト・イン履歴をレビューするオファリングを選択します。
3. 「オプトイン機能」ボタンをクリックします。
4. オプト・インのページで、「すべての履歴の表示」ボタンをクリックしてオプト・イン履歴のページを開き、オファリングのすべての機能領域および機能に加えられた変更を表示します。

**注意:** 機能の編集のページまたはオプト・インのページで、特定の機能領域や機能に対応する「履歴の表示」アイコンをクリックすることもできます。クリックすると、該当する機能領域または機能の変更履歴が表示されます。

変更履歴をレビューします。オプト・イン構成に加えられた変更が、日付の新しい順で表示されます。変更履歴には次の情報が表示されます。

- オプト・イン選択が変更されたオファリング、機能領域、または機能の名前
- オファリング、機能領域、機能のいずれであるかを示すタイプ
- 変更前のオプト・イン選択を示す古い値

- 変更後のオプト・イン選択を示す新しい値
- 変更を行ったユーザーのユーザーID
- 変更の日時

## オフリング構成に関するFAQ

なぜ機能を使用可能にできないのですか。

機能を使用可能にするには、その親も使用可能になっている必要があります。親を使用可能にしてから、目的の機能を使用可能にしてください。

使用可能にした機能領域または機能のオプト・イン設定が読取り専用になっているのはなぜですか。

機能領域または機能のオプト・イン設定が読取り専用で表示される場合は、次の2つの理由が考えられます。

- 機能領域または機能がオフリングのコア機能を表している場合、親の使用可能または使用不可のステータスが自動的に継承されます。
- 対象となるビジネス運営によっては、使用可能にされた機能領域または機能のオプト・イン設定がロックされている場合があります。

親が使用可能になっていないのに使用可能になっている機能領域または機能があるのはなぜですか。

機能領域または機能が複数のオフリングで共有されている場合、それらのオフリングの1つを使用可能にすると、それらすべてのオフリングで機能領域または機能が使用可能として表示されます。ただし、機能領域の設定データを管理するには、使用可能にされたオフリングを使用する必要があります。

機能領域または機能の「設定」アイコンが表示されないのはなぜですか。

「設定」アイコンが表示されない場合、その機能領域または機能は、事前に設定を行わなくても関連するトランザクションの使用を開始できます。

機能領域または機能の「設定」アイコンが無効になっているのはなぜですか。

機能領域または機能が使用不可能になっている場合、設定データの保守はできません。そのため、「設定」アイコンは機能領域または機能が使用可能にされた後にのみ有効になります。

## 「設定が必要」列のアイコンが読取り専用なのはなぜですか。

設定タスクの実行権限がない場合、「設定が必要」列が読取り専用で表示されます。これは、機能領域または機能で関連トランザクションを実行するには事前設定が必要であることを示しています。しかし、必要な権限がないため、このアイコンを使用して「設定」ページに移動して設定データを保守することはできません。関連するトランザクションを実行する前に、機能領域または機能の設定権限を持つユーザーに連絡してください。

## 使用中のオフリングの新機能にオプト・インのボタンがないのはなぜですか。

以前から使用可能にしていたオフリングのコア機能を表す機能であれば、アップグレード後も新しい機能は自動的にオプト・インになります。そのため「オプトイン」ボタンは表示されません。

## 使用中のオフリングの新機能のオンライン・ヘルプはどこにありますか。

「新機能」ページに移動する前に、「ホーム」ページの「ヘルプ」アイコンを選択してください。オンライン・ヘルプが用意されている新機能の場合、「詳細」列にアイコンが表示されます。アイコンをクリックして、詳細を確認できます。



# Functional Setup Managerの使用



## 4 オファリングの機能領域を使用した設定の管理

この章の内容は次のとおりです。

- [オファリングの機能領域を使用した設定の管理: 説明](#)
- [オファリングの機能領域を使用した設定の管理: 手順](#)
- [既存の設定データを更新するタスクへのアクセス: 手順](#)
- [オファリングの機能領域を使用した設定の管理に関するFAQ](#)

### オファリングの機能領域を使用した設定の管理: 説明

オファリングを使用可能にし、機能領域と機能のオプト・イン選択を構成した後、機能領域をガイドとして使用して、オファリングを設定できます。機能設定に対するこの都度採用アプローチでは、オファリングの様々な機能領域を異なる時点で柔軟に設定できます。

たとえば、トランザクションを開始するためにすぐに必要な機能領域の設定から始めることができます。その後、追加のオファリング機能を徐々に導入しながら、他の機能領域を設定できます。設定のベスト・プラクティスに従ったよりシンプルな実装方法を求める企業には、この設定プロセスが理想的です。

### 機能領域

この方法を採用する場合は、まず、使用可能にしたオファリングの1つを選択します。オプト・イン構成に基づき、主な機能領域とオプションの機能領域を含む、使用可能なすべての機能領域がリストに自動的に表示され、設定タスクをガイドします。表示順序は機能領域の設定順序を反映しています。これは、リストの上の方に表示される機能領域の設定データは通常、リストの下の方に表示される機能領域の前提条件となるためです。設定が必須の

機能領域はすべて、アスタリスクでマークされます。

使用可能にしたオフリングの1つ以上に該当する機能領域は、共有としてマークされます。そのため、以前、別のオフリングの実装中に設定されたものかどうかを評価できます。共有の機能領域が以前設定されたものである場合も、現在実装中のオフリングに対して設定データの追加が必要かどうかを評価する必要があります。

いくつかの機能領域については、クイック設定を使用して、その基本的な機能を素早く実装できます。機能領域の横に「クイック設定」アイコンが表示される場合は、クイック設定を使用できます。設定タスク・リストではなくこのタスクを使用して、それらの機能領域を設定できます。

## 設定タスク

それぞれの機能領域について、機能のオプト・イン構成に基づく設定のベスト・プラクティスを表す、順序付けされたタスク・リストが表示されます。これによって、最適な実装のための要件を確認できます。これらのタスクを使用して、それぞれが表す設定データを入力します。機能領域と同様に、設定データの依存関係に対応できるように、タスクの表示順序も実行順序を反映しています。

### 必須タスク

設定作業を最小限に抑え、オフリングをできるだけ早くトランザクションに使用できるようにするため、デフォルトでは必須の設定タスクのみが表示されます。リスト内の残りのタスクは、通常、オプションのタスクであるか、一般的なユース・ケースに基づいてデフォルト値が事前定義されたタスクです。それらのタスクをレビューして、実装でそれらのデフォルトの設定データを変更する必要があるかどうかを判断することもできます。

### スコープのあるタスク

設定データが特定の属性やスコープによってセグメント化されている場合、そのタスクを繰り返し実行する必要があります。この場合、タスクを実行する前に、適格なスコープ値を選択する必要があります。前に選択したスコープ値を選択するか、新しいスコープ値を選択するか、または新しいスコープ値を作成して、それを選択できます。選択した値は設定データの適格な属性であるため、異なるスコープ値ごとに異なる設定データを入力できます。

**注意:** 適切なセキュリティ権限がない場合は、タスクを実行できません。

## オフリングの機能領域を使用した設定の管理: 手順

### オフリングの設定: ビデオ



**ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、企業で必要とされるオフリング・コンポーネントを設定するためにビジネス・データを作成する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### スコープのあるオフリングの設定: ビデオ





**ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、スコープのあるビジネス・オブジェクトの特定のバージョン用にビジネス・データを作成する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

## 手順

「設定および保守」作業領域を使用して、オフリング全体またはオフリング内の機能領域を直接実装できます。オフリングを設定するには、機能設定ユーザーのロール(ORA\_ASM\_FUNCTIONAL\_SETUPS\_USER\_ABSTRACT)が、設定データを入力および変更するにはタスク固有の権限があるロールが必要です。タスク固有の権限の詳細情報は、**Oracle Applications Cloud**共通機能セキュリティ・リファレンス・マニュアルを参照してください。

## オフリングの設定

オフリングの機能領域を使用してオフリングを設定するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、実装するオフリングを選択します。
3. 機能領域のリストをレビューします。リストに表示されていない機能領域は、使用可能になりません。機能領域を有効にするには、「オフリングの構成: 手順」のステップに従います。
4. このオフリングを初めて設定している場合は、リストされている順序に従って、一度に1つずつ機能領域を選択します。既存の設定データを変更している場合は、該当する機能領域を選択します。
5. その機能領域にクイック設定を使用できる場合は、関連する設定タスクを使用せずに、クイック設定を使用してデータを入力できます。アイコンをクリックして先に進みます。
6. リストされている順序でタスクを選択して、機能領域の設定データを入力します。タスクを選択して、そのタスクの設定データを入力するページを開きます。既存の設定データを変更するには、関連するタスクを直接選択します。

**注意:** 機能領域において必須設定がある場合は、必要な設定データを入力するタスクのみがデフォルトで表示されます。機能領域においてすべての設定データがオプションの場合、すべてのタスクがデフォルトで表示されます。機能領域の必須タスクとオプション・タスクの完全なリストを表示するには、「表示」リストから「すべてのタスク」を選択します。

7. タスクでスコープが必要な場合は、先に進む前にスコープ値を選択します。前にスコープ値を選択した場合は、その値がスコープの列にリストされます。その値が正しいことを確認し、必要に応じて別の値を選択します。新しい値を作成するか、既存の値を選択して追加するか、前に選択した値のリストから選択できます。選択が終了したら、「適用してタスクに進む」をクリックします。選択したスコープ値は、変更しないかぎり、同じスコープを使用するすべてのタスクで使用されます。
8. 設定データを入力します。終了したらページを閉じ、設定タスク・リストに戻ります。
9. 必要に応じてリストから別のタスクを選択し、その設定データを入力します。

## 関連項目

- アップグレード後の新機能へのオプト・イン: 手順
- オフリングの構成: 手順

# 既存の設定データを更新するタスクへのアクセス: 手順

「設定および保守」作業領域を使用して、オフリング内の既存の設定データを更新できます。

## 設定データの更新

既存の設定データを更新するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」をクリックします。
2. 「設定および保守」作業領域でオフリングを選択します。
3. 機能領域を選択し、タスクのリストから更新する設定タスクを選択します。必要なタスクのデフォルト・リストにタスクが見つからない場合は、「表示」リストから「すべてのタスク」を選択してすべてのタスクを表示します。

**ヒント:** 機能領域においてクイック設定を使用できる場合は、関連する設定タスクを使用せずに、アイコンをクリックしてデータの更新に進みます。

4. 次のいずれかを実行します。
  - スコープが必要なタスクの場合、前にスコープ値を選択した場合は、既存の値が「スコープ」列に表示されます。同じ値を保持することも、新しいスコープ値に更新することもできます。値が設定されていない場合は、正しいスコープ値を設定してから「適用してタスクに進む」をクリックします。選択したスコープ値は、同じスコープを使用するすべてのタスクで使用されます。
  - タスクでスコープが必要ない場合は、タスクをクリックして続行します。
5. 対応するタスク・ページで設定データを更新します。
6. 変更を保存してページを閉じ、タスク・リストに戻ります。

### 関連項目

- アップグレード後の新機能へのオプト・イン: 手順
- オフリングの構成: 手順

## オフリングの機能領域を使用した設定の管理に関するFAQ

設定しようとしているオフリングがページ・ヘッダー・メニューに表示されないのはなぜですか。

まだ使用可能にしていないオフリングは設定できません。オフリングの構成手順を実行してから、設定しようとしているオフリングを使用可能にします。オフリングの構成権限がない場合は、オフリングの構成を行うユーザーに連絡し、オフリングを使用可能にするよう依頼します。オフリングが構成され使用可能になったら、「設定」ページに戻ります。ページ・タイトル・メニューにオフリングが表示されるため、設定を開始でき

ます。

## 自分のオフリングに設定しようとしている機能領域が、「設定」ページの機能領域のリストに表示されないのはなぜですか。

リストに機能領域を表示させるには、機能オプト・イン構成でその機能領域を使用可能にする必要があります。オフリングの構成権限がある場合は、「機能オプトインの変更」を選択してオフリングの「オプトイン」。ページを開き、対象の機能領域を使用可能にします。オフリングの構成権限がない場合は、オフリングの構成を行うユーザーに連絡し、機能領域を使用可能にするよう依頼します。機能領域が使用可能になったら、「設定」ページに戻ります。機能領域が「設定」ページに表示されます。

## 関連する機能領域がわからない場合、タスクをどのように探せばよいですか。

「検索タスク」フィールドにタスクの完全名または名前の一部を入力し、「検索」アイコンをクリックします。検索結果がウィンドウに表示されます。検索条件に一致するすべてのタスクが、関連する機能領域とともに表示されます。検索結果から適切なタスク名を選択して、「タスク」表内のタスクに移動します。



# Functional Setup Managerの使用



## 5 実装プロジェクトを使用した設定の管理

この章の内容は次のとおりです。

- [実装プロジェクトを使用した設定の管理: 説明](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定の管理: 手順](#)
- [設定タスクの割当: 手順](#)
- [割当て済タスクを使用した設定データの入力: 説明](#)
- [割当て済タスクを使用した設定データの入力: 手順](#)
- [実装の進捗のモニタリング: 説明](#)
- [実装の進捗のモニタリング: 手順](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定の管理に関するFAQ](#)

### 実装プロジェクトを使用した設定の管理: 説明

実装プロジェクトは、Oracle Applications Cloudの実装に使用する設定タスクのリストです。この方法では、実装プロジェクトを作成して設定タスクのリストを生成し、設定データの管理に責任を負う様々なユーザーにタスクを割り当て、設定タスクが完了するまで進捗をモニターします。

設定のデフォルトのベスト・プラクティスを変更する場合や、設定データの管理職責を幅広いユーザー・グループに割り当て、それらのユーザーの進捗をモニターして、設定をプロジェクトとして管理する場合は、この方法が最適です。

### タスク・リストの生成

実装プロジェクトを作成する際には、通常、使用可能なオフリングの1つを選択してタスクの初期リストを生成します。複数のオフリングの使用を計画している場合は、各オフリング用に別個の実装プロジェクトを作成します。オフリングを選択するとそのコアな機能領域が自動的に選択されますが、使用可能なオフリングのオプションの機能領域のすべてまたは一部を選択することも、どの機能領域も選択しないこともできます。

**注意:** 複数のオフリングを使用して作成した実装プロジェクトは、設定データのエクスポートおよびインポートには使用できません。エクスポートおよびインポートのプロセスは失敗します。

選択したオフリングと機能領域をテンプレートとして使用して、実装プロジェクト用のタスク・リスト階層が生成されます。このタスク・リスト階層には、選択済オフリングおよび機能領域にその時点で関連付けられたタスクや、使用可能なそれらの依存機能が含まれます。

このタスク・リスト階層内のタスクは、それらが表す設定データの前提条件および依存要件に従って編成されます。前提条件となるデータがないことで発生するエラーを回避するために、設定データはタスクと同じ順序で入力することをお勧めします。

## タスク・リストの変更

必要な場合は、タスクを追加、削除または順序変更して、実装プロジェクトのタスク・リスト階層を変更することが可能です。タスク・リスト階層を変更する場合は、データの依存関係の要件を考慮し、それらを維持する必要があります。そうしないと、ユーザーがその実装プロジェクトを使用して、設定データの入力や、別の環境への設定データのエクスポートおよびインポートを試みた時に、エラーが発生します。

**注意:** 作成後、実装プロジェクトはその作成に使用されたオフリングおよび機能領域との関係を失います。そのため実装プロジェクトの作成後に、オフリングの機能領域のオプト・イン構成を変更したり、関連付けられているタスク・リストを変更したりするなどしてタスク・リスト階層を変更することはできません。

実装プロジェクトのタスク・リストに加えた変更は、その実装プロジェクトにのみ適用され、同様のタスク・リストを持つ別のプロジェクトには影響しません。

タスク・リストに加えた変更は、リスト内のタスクが表す設定データには影響しません。設定データの入力後はそのソースを識別できません。たとえば、データの入力または更新に使用された実装プロジェクトやその他の方法を識別できなくなります。同様に、実装プロジェクトからタスクを削除した場合、適切なユーザー・インターフェースを使用してデータを明示的に削除しないかぎり、そのタスクを使用して入力した設定データは環境内に引き続き存在します。

## 設定タスクの割当

実装プロジェクトのタスクを、それらのタスクが表す設定データの管理職責を担うユーザーに割り当てることができます。通常、各設定タスクは単一のユーザーに割り当てられます。しかし、実装プロジェクトで必要とされる場合は、複数のユーザーに同じタスクを割り当てすることもできます。各ユーザーが、同じタスクに割り当てられた他のユーザーから独立して、タスクの実行と設定データの管理を柔軟に行うことが可能です。


割当済タスクの完了期日を指定すると、タスク割当の進捗のモニターや、実装プロジェクト全体の進捗のモニターに役立ちます。1つのタスクに複数のユーザーを割り当てる場合、各ユーザーに同じ期日を割り当てるとも、ユーザーごとに異なる期日を割り当てるともできます。

いつでも、別のユーザーにタスクを再割当したり、新しい期日を指定したりできます。

**注意:** ユーザーにタスク・リストを割り当てると、タスク・リストに含まれているすべてのタスクがそのユーザーに割り当てられます。

## 実装プロジェクトを使用した設定の管理: 手順

### ビデオ

-  **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、オフリングとそのコンポーネントの実装方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

実装プロジェクトを作成する前に、オフリングを構成し、使用する予定の機能領域および機能をオプトインしていることを確認します。実装プロジェクトを作成および管理するには、「実装プロジェクトの管理」権限(ASM\_MANAGE\_IMPLEMENTATION\_PROJECT\_PRIV)が必要です。

### 実装プロジェクトの作成

実装プロジェクトを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、「処理」メニューから「作成」を選択するか、「作成」アイコンをクリックします。
4. 「実装プロジェクトの作成: 基本情報」ページで、プロジェクトのわかりやすい名前と簡単な説明を入力します。
5. オプションで、プロジェクトをユーザーに割り当て、開始日を指定します。
6. 「次」をクリックします。すべての有効なオフリングおよび機能領域が「実装プロジェクトの作成: 実装するオフリングの選択」ページにリストされます。
7. 使用するオフリングおよび機能領域を選択して、プロジェクトのタスク・リストを生成します。
8. 選択が完了したら、「プロジェクトの保存およびオープン」をクリックします。
9. 実装プロジェクトに指定した名前のページがオープンし、そのタスク・リストが表示されます。デフォルトのタスク・リストは、前のステップで選択したオフリングと機能領域に基づいて生成されます。必要に応じてタスク・リストを変更し、適切なユーザーへのタスクの割当てを開始できます。

### 実装プロジェクトの変更

実装プロジェクトに対して生成されるデフォルトのタスク・リストは常に、タスクが表す設定データのデータ依存関係要件に対応する適切な順序で編成されます。ビジネス要件に対応するために避けられない場合を除き、タスク・リストを変更しないことをお勧めします。

実装プロジェクト内でタスクを追加、削除または順序変更できます。実装プロジェクトにこのような変更を加える

前に、データ依存関係要件に違反していないことを確認してください。

## タスクの追加

実装プロジェクトに設定タスクを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、変更対象の実装プロジェクトをオープンして、そのタスク・リスト階層を表示します。
4. 追加する新しいタスクの前のタスクまたはタスク・リストを選択し、「追加」アイコンをクリックします。
5. タスク・リストおよびタスクの追加ページで、追加するタスクまたはタスク・リストを検索して選択し、「適用」をクリックします。前のステップで選択したタスクまたはタスク・リストの後ろに選択内容が追加されます。
6. 必要に応じて、検索、選択および適用を繰り返してタスクまたはタスク・リストをさらに追加します。終了したら、「完了」をクリックして、実装プロジェクトに戻ります。

## タスクの順序変更

実装プロジェクトの設定タスクを順序変更する手順は、次のとおりです。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、変更対象の実装プロジェクトをオープンして、そのタスク・リスト階層を表示します。
4. 移動するタスクを選択します。
5. 「処理」→「順序変更」をクリックします。

タスク・リストを移動する場合も同じステップを実行します。

## タスクの削除

実装プロジェクトから設定タスクを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、変更対象の実装プロジェクトをオープンして、そのタスク・リスト階層を表示します。
4. 削除するタスクまたはタスク・リストを選択します。
5. 「削除」アイコンをクリックします。

**注意:** タスクを削除しても、そのタスクを使用して入力した設定データは削除されません。

## 関連項目

- [アップグレード後の新機能のオプトイン: 手順](#)

## 設定タスクの割当: 手順

機能に責任を負う企業内のユーザーが各自の専門領域の設定データを入力する場合は、それらのユーザーに適切な設定タスクを割り当てます。期日を割り当て進捗をモニターします。必要に応じて、あるユーザーに割り当てたタスクを別のユーザーに再割当できます。

### 初期割当

設定タスクを初めて機能ユーザーに割り当てるには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、そのタスクをユーザーに割り当てる実装プロジェクトを開きます。
4. タスク・リスト階層から、1つ以上のタスクまたはタスク・リストを選択します。
5. 「タスクの割当」をクリックして「タスクの割当」ウィンドウに移動します。
6. 選択したタスクまたはタスク・リストを割り当てる1名以上のユーザーを検索して選択し、「適用」をクリックします。「タスクの割当」ウィンドウの割当済ユーザーの表に、選択したユーザーが追加されます。
7. 必要に応じて、検索、選択、適用の手順を繰り返して、ユーザーを追加します。追加作業が終了したら「完了」をクリックして、「タスクの割当」ウィンドウに戻ります。
8. 割当済ユーザーのすべてに同じ期日を割り当てるには、「同じ日を割当」チェック・ボックスを選択します。
9. 割当済ユーザーごとに異なる期日を割り当てるには、「割当済ユーザー」表の「期日」列をクリックし、各割当済ユーザーの期日を選択します。
10. 必要に応じて、割当済ユーザー用のノートを追加します。「保存してクローズ」をクリックして実装プロジェクトに戻ります。

### 再割当

あるユーザーから別のユーザーに設定タスクを再割当するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「概要」をクリックします。
4. 「実装プロジェクト: 概要」ページで、「割当済ユーザー」表から、割当を変更する実装プロジェクトを検索して選択します。
5. 実装プロジェクト詳細リージョンの「割当詳細」タブをクリックします。
6. 割当を変更するタスクを検索および選択し、「タスクの再割当」をクリックします。
7. 「タスクの再割当」ウィンドウで、タスクを再割当するユーザーを「新規ユーザー」メニューから選択し



ます。

8. 必要に応じて、新しい期日を選択します。
9. 「保存してクローズ」をクリックします。
10. 必要に応じて、手順を繰り返して他のタスクを再割り当てします。

## 割当て済タスクを使用した設定データの入力: 説明

実装プロジェクトの設定タスクが割り当てられているユーザーである場合、すべての割当て済タスクの連結リストが表示されます。そのリスト内の各タスクを使用して、タスクが表示設定データを入力します。割当て済タスクのリストが長い場合は、期日、タスク・ステータスまたは実装プロジェクト名でリストをフィルタすると、タスクをより簡単に見つけることができます。さらに、リスト内の特定のタスクをタスク名で検索することもできます。

**注意:** タスクを実行するには、適切なセキュリティ権限が必要です。

### スコープのあるタスク

設定データが特定の属性やスコープによってセグメント化されている場合、そのタスクを繰り返し実行する必要があることがあります。この場合、タスクを実行する前に、適格なスコープ値を選択する必要があります。前に選択したスコープ値を選択するか、新しいスコープ値を選択するか、または新しいスコープ値を作成して、それを選択できます。選択した値は設定データの適格な属性であるため、異なるスコープ値ごとに異なる設定データを入力できます。

### 先行タスク

一部の設定タスクは、他の設定データの前提条件となる設定データを表します。このような設定タスクは先行タスクと呼ばれます。

割当て済タスクのリストでは、先行タスクに依存するタスクがあるかどうかを示され、次の情報が提供されます。

- 特定のタスクの先行タスク。
- 先行タスクの現在のステータス。
- 設定データを入力する前の各先行タスクの推奨ステータス。

### タスク・ステータスの設定


デフォルトでは、すべての割当て済タスクのステータスが「未開始」に設定されます。タスク・ステータスは、タスク用データの入力を開始するときに「進行中」に、データ入力終了したときに「完了済」に変更できます。タスクのステータスによって、タスクの設定データの入力を続行できるかどうかや、データをエクスポートおよびインポートできるかどうかが決まるわけではありませんが、実装マネージャが割当ての進捗をモニターするのに役立ちます。

### ノートの追加

ファイル、URLまたは自由形式テキストをノートとして割当て済タスクに追加できます。複数のユーザーが同じタスクに割り当てられている場合、これらのノートには、自分自身だけでなく、実装マネージャや他の担当者もアクセスできます。これは、他の担当者とのコミュニケーションやコラボレーションに役立ちます。

## 割当て済タスクを使用した設定データの入力: 手順

### ビデオ

 **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、割当て済実装タスクを使用して設定データを入力する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

「割当て済実装タスク」ページの割当て済タスクを使用して、設定データを入力できます。

### 割当て済タスクを使用した設定データ入力

割当て済タスクを使用して設定データを入力するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「割当て済実装タスク」を選択します。
3. 「割当て済実装タスク」ページで、データを入力するタスクを見つけます。必要に応じて、フィルタを使用してタスクを見つけやすくします。
4. タスクが先行タスクに依存するかどうかを確認します。依存する場合は、その先行タスクのステータスと推奨ステータスを確認します。
5. 「タスクに進む」をクリックして、タスクの設定データを入力するページに移動します。この手順を実行するには、タスク固有の権限が必要です。タスク固有の権限要件の詳細情報は、**Oracle Applications Cloud 共通機能セキュリティ・リファレンス・マニュアル**を参照してください。
6. タスクでスコープが必要な場合は、スコープ値を選択します。前にスコープ値を選択した場合は、その値がスコープの列にリストされます。正しいスコープ値が選択されていることを確認し、必要に応じて、別の値をクリックして選択します。新しい値を作成するか、既存の値を選択して追加するか、前に選択した値のリストから選択できます。選択が終了したら、「適用してタスクに進む」をクリックします。選択したスコープ値は、変更しないかぎり、同じスコープを使用するすべてのタスクで使用されます。
7. 設定データを入力します。終了したらページを閉じ、設定タスク・リストに戻ります。
8. ステータス列内のアイコンをクリックして、ステータスを変更します。
9. 必要に応じて、ノート列内の数字をクリックして、ノートを追加します。
10. リストから他のタスクを選択し、手順を繰り返してそれらの設定データを入力します。

# 実装の進捗のモニタリング: 説明

実装プロジェクトで割り当てられたタスクの進捗をモニターおよび分析できるように、いくつかのグラフィカル・レポートを使用できます。概要ページでグラフにドリルダウンして、プロジェクトの進捗を追跡するために必要なすべての情報を取得できます。

## ステータス別割当

この円グラフには、割り当てられたタスクのステータスが、実装プロジェクト内のタスク数の合計に対する割合として表示されます。円グラフには、特定のステータスを持つ実際のタスク数も表示されます。タスク・ステータスは事前定義済で、進捗を示すために使用されます。使用可能なステータスは次のとおりです。

- 未開始
- 進行中
- 完了
- 実行凍結済
- 送信済
- エラーありで完了
- 警告ありで完了

## 期日別割当

この積重ね棒グラフは、様々な事前定義済期間の期日を持つ割当の数を、タスク・ステータスごとに表示します。期間は棒で表され、タスク・ステータスは各棒内の累積で表されます。このレポートでは、割当済タスクの期日を現在の日付と比較して、タスクが属する期間を決定します。事前定義済の期日期間は次のとおりです。

- 期日超過(1週間以上)
- 今週
- 次週
- 3週間以内
- 4週間以内
- 4週間後
- なし(期日なし)

## タスク・リスト別タスク・ステータス

この積重ね棒グラフには、実装プロジェクト内の各タスク・リストのタスク数の合計が棒として表示されます。合計数には、タスク・リストのすべての後続レベルのタスクが含まれます。各棒は、棒内の累積で表されるタスク・ステータスでさらに分類されます。タスク・リストは実装プロジェクト内の階層で整理されるため、グラフには、実装プロジェクトのトップ・ノードのみが最初に表示されます。各グラフにドリルダウンして、次のレベルの詳細を表示できます。

## 未完了タスクを持つ上位5名の割当済ユーザー(期日別)

この積重ね棒グラフには、ステータスが完了済でないなど、未完了タスクの最も多い上位5名のユーザーが棒として表示されます。各棒は、棒内の累積で表される期日期間でさらに分類されます。

## タスク割当の上位5名

この積重ね棒グラフには、割当の最も多い上位5名のユーザーが、期日期間でフィルタされて表示されます。各ユーザーの割当は、棒内の累積で表されるタスク・ステータスでさらに分類されます。デフォルトのフィルタリングは「今週」に設定されます。

## 実装の進捗のモニタリング: 手順

実装プロジェクトの概要ページを使用して、実装プロジェクトの進捗を監視します。この手順を実行するには、実装プロジェクト概要のレビュー権限(ASM\_REVIEW\_IP\_OVERVIEW\_PAGE\_PRIV)が必要です。

### 実装の進捗のモニタリング

実装プロジェクトの進捗をモニターするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「実装プロジェクトの管理」を選択します。
3. 「実装プロジェクトの管理」ページで、「概要」をクリックします。
4. 「実装プロジェクト: 概要」ページで、モニターする実装プロジェクトをプロジェクト・リストで検索し、選択します。
5. 実装プロジェクト詳細リージョンで、次の手順を実行します。
  - 「割当ステータス」タブをクリックして、ステータス別割当のレポートと期日別割当のレポートを表示します。
  - 「タスク・リスト別割当ステータス」タブをクリックして、タスク・リスト別割当ステータスのレポートを表示します。
  - 「リソース・ステータス」タブをクリックして、未完了タスクを持つ上位5名の割当済ユーザー(期日別)のレポートと、タスク割当の上位5名のレポートを表示します。

## 実装プロジェクトを使用した設定の管理に関するFAQ

最近使用可能にした機能領域または機能のタスクが実装プロジェクトで表示されないのはなぜですか。

実装プロジェクトの作成後に機能領域または機能を使用可能にした場合、その実装プロジェクトでは、新しく使用

可能にした機能領域または機能に関連するタスクが表示されません。実装プロジェクトのタスク・リストは、その実装プロジェクトの作成時における、機能領域および機能の使用可能ステータスに基づいて作成されます。生成されたタスク・リストは、後でオプト・イン構成が変わっても変更されません。

## 実装プロジェクトの作成にどのオフリングを使用するかに関係なく、実装プロジェクトにいくつかの共通タスクが含まれるのはなぜですか。

すべてのオフリングは自己完結型です。たとえば、そのデフォルトの設定タスク・リストには、エンドツーエンドの実装を完了させるため、前提条件を含むすべてのタスクが含まれます。複数のオフリングで必要とされる設定タスクがある場合は、どちらのオフリングにもそれらのタスクが含まれます。

## 複数の実装プロジェクトで設定データを使用する場合、共通タスクで設定データが複製されますか。

いいえ。複数の実装プロジェクトで使用するタスクで、データが複製されることはありません。実装プロジェクトや、設定データの入力に使用するその他の方法で、設定データがセグメント化されることはありません。実行場所となる実装プロジェクトには関係なく、各タスクが同じ設定データを参照します。そのため、別の実装プロジェクトのタスクを使用するときに、既存のデータをレビューし、必要に応じてそれを更新することも可能です。

## 実装プロジェクトを使用して入力する設定データのタイプを参照するにはどうすればよいですか。

実装プロジェクトでは、設定タスクの階層がデフォルトで表示されます。ビジネス・オブジェクト階層の表示に切り替えることもできます。各ビジネス・オブジェクトが、設定データのタイプを表します。階層内のビジネス・オブジェクトの順序は、実装プロジェクトがエクスポート・プロセスまたはインポート・プロセスで使用される際の、設定データのエクスポート順序およびインポート順序を示します。

## データの入力後に割当済タスクのリストに戻ったときに、タスクが完了済として表示されないのはなぜですか。

設定データの入力後、割当済タスクのリストに戻っても、必ずしもタスクが完了したことにはなりません。追加情報を入力するため、タスクに戻る必要が生じることもあります。そのため、タスクが自動的に完了済としてマークされることはありません。そのタスクに必要なすべてのデータの入力を終えたときに、ユーザーがタスク・ステータスを完了済に設定できます。

## すでに実行し、完了として設定した共通タスクが、複数の実装プロジェクトのタスクのすべてのインスタンスに完了として表示されないのはなぜですか。

各実装プロジェクトで、各タスクのタスク・ステータスを個別に設定する必要があります。あるタスクの設定データが、実装が異なる場合は異なるデータ・セットを必要とすることがあります。タスクのステータスが、前の実装

のステータスに基づいて更新されることはありません。たとえば、「財務管理およびレポート」を実装し、通貨の設定を完了するとします。その後、「調達」を実装する際に、サプライヤへの支払い用にいくつかの追加の通貨が必要になりますが、財務レポートでは必要ありません。

## データ入力を開始した後で実装プロジェクトのタスク・リストを変更するとどうなりますか。

実装プロジェクトのタスク・リストはいつでも変更できます。変更は即座に有効になります。新しいタスクを追加した場合、割当、ステータス・レポート、および実行にそのタスクをすぐに使用できます。タスクを削除した場合、そのタスクはタスク・リストに含まれなくなります。しかし、そのタスクを使用して入力したデータは削除されません。

## 実装固有のレポートを表示するにはどうすればよいですか。

実装タスク・リスト階層の各レベルでレポートのセットをダウンロードおよび印刷できます。これらのレポートには、タスク・リストとすべての依存タスク・リストおよびタスクの関連情報が表示されます。使用可能なレポートは、「設定タスク・リストおよびタスク」レポート、「関連ビジネス・オブジェクト」レポートおよび「関連エンタープライズ・アプリケーション」レポートです。



# Functional Setup Managerの使用



## 6 CSVファイル・パッケージを使用した設定の管理

この章の内容は次のとおりです。

- [CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 説明](#)
- [CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 手順](#)
- [CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポートの自動化](#)

### CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 説明

大量の設定データを入力または更新する場合、設定タスクUIを使用して個別に管理する方法は効率的とはいえません。

設定データを一括で作成または更新するには、**CSVファイル・パッケージ**のエクスポートおよびインポートを使用します。**CSVファイル・パッケージ**を使用して、機能領域またはオフリングに関連付けられた特定のタスクまたはタスクのグループの設定データを管理します。

### CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポート: 手順

# ビデオ

- ▶ **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、**CSV**を使用して設定データをエクスポートする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

## 手順

**CSV**ファイル・パッケージをエクスポートおよびインポートするには、アプリケーション実装コンサルタント・ロールが必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトに関連する設定データをエクスポートするには、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」トピックで指定されている追加のロールが必要です。

さらに次の権限も必要です。

- 設定データのエクスポート・プロセスの発行(**ASM\_SUBMIT\_EXPORT\_SETUP\_DATA\_PROCESS\_PRIV**)
- 設定データのインポート・プロセスの発行(**ASM\_SUBMIT\_IMPORT\_SETUP\_DATA\_PROCESS\_PRIV**)
- タスク固有の権限

タスク固有の権限の詳細情報は、**Oracle Applications Cloud**共通機能セキュリティ・リファレンス・マニュアルを参照してください。

## CSVファイルへの設定データのエクスポート

設定データを**CSV**ファイルにエクスポートするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」をクリックします。
2. 「設定」ページで、**CSV**ファイルを使用した設定データ入力が必要なタスクのオフリングを選択します。
3. 必要な設定データを識別します。
  - オフリングに関連付けられているすべてのタスクの場合、「処理」→「**CSV**ファイルにエクスポート」をクリックします。
  - 機能領域に関連付けられているすべてのタスクの場合、機能領域を選択してから「処理」→「**CSV**ファイルにエクスポート」をクリックします。
  - 特定のタスクの場合:
    - a. 適切な機能領域を選択し、「タスク」表に移動します。
    - b. 「列」→「表示」→「処理」を選択して、該当するタスク処理を表示します。
    - c. タスクを選択し、対応する「処理」メニューから「**CSV**ファイルにエクスポート」を選択します。

**注意:** そのタスクでエクスポートがサポートされない場合は、「**CSV**ファイルにエクスポート」オプションが無効になります。
4. 「新規作成」を選択します。タスクで表されるすべての既存の設定データをエクスポートできます。
  - 選択された設定タスクのいずれかでスコープがサポートされる場合は、適切なスコープ値を選択して、エクスポートする設定データをフィルタできます。
  - また、環境内の既存の設定データをエクスポートせずに、設定データの管理のためにテンプレートをダウンロードすることもできます。これを行うには、「テンプレート・ファイルのみエクスポート」



ト」チェック・ボックスを選択します。

5. 「送信」をクリックしてエクスポート・プロセスを開始します。
6. オフリング、機能領域またはタスクの「**CSV**ファイルにエクスポート」を選択して、最新のプロセスを表示します。プロセスが完了するまでモニターします。
7. 完了したらそのプロセスを選択して、結果をレビューします。エラーなしでプロセスが完了したことを確認してから、**CSV**ファイル・パッケージをダウンロードします。
8. タスクに複数のビジネス・オブジェクトが関連付けられている場合、複数の**CSV**ファイルが見つかることがあります。

## CSVファイルでの設定データの変更

設定データを**CSV**ファイルに入力する、または**CSV**ファイルで変更するには、次の手順に従います。

1. ダウンロードした**CSV**ファイル・パッケージからローカル・フォルダにファイルを抽出します。
2. **Microsoft Excel**を開き、データのタブをクリックします。
3. 「外部データの取り込み」グループの「テキストから」をクリックします。
4. ダウンロードする**CSV**ファイルにナビゲートして選択します。
5. 「データ型」として「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 区切り記号として「コンマ」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. すべての列の列データ形式として「テキスト」を選択し、「完了」をクリックします。これで、ファイルを編集できます。

**ヒント:** **CSV**ファイルの入力方法を理解するためにさらに情報が必要な場合は、タスクに関連するヘルプを参照してください。

8. 必要な変更を加えて、**CSV**を**.zip**ファイルに保存します。**CSV**ファイル・サイズが**10MB**を超えないようにしてください。これで、ファイルをインポートできます。

## CSVファイルでの設定データのインポート

新しい設定データまたは変更済設定データをアップロードするには、次の手順に従います。

1. 必要に応じて、オフリング、機能領域またはタスクの「処理」メニューから、「**CSV**ファイルからインポート」を選択します。
2. 「新規作成」を選択します。
3. 適切な**.zip**ファイルを選択します。選択したオフリング、機能領域またはタスクとそのファイルが対応することがアプリケーションによって検証された後で、プロセスを送信できます。
4. 「送信」をクリックします。
5. 「**CSV**ファイルからインポート」を選択して、最新のプロセスを表示します。プロセスが完了するまでモニターします。
6. 完了したらそのプロセスを選択して、結果をレビューします。エラーが発生した場合は「ビジネス・オブジェクト」セクションの下の「ステータス詳細」にリストされる詳細をレビューします。必要に応じて、問題を修正して再度インポートします。
7. 設定データを正常にインポートした後、設定ページからタスクを選択して、ロード済データを確認できます。

# CSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポートの自動化

「設定および保守」作業領域外でCSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポートを実行するには、SOAP WebサービスまたはREST APIを使用できます。

WebサービスおよびAPIの使用の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- Oracle Applications Cloud共通機能のためのSOAP Webサービス
- Oracle Applications Cloudの共通機能のためのREST API

「設定および保守」を使用してCSVファイル・パッケージをエクスポートおよびインポートするために必要なロールおよび権限が、APIを使用してCSVファイル・パッケージのエクスポートおよびインポートを開始するために必要です。次があることを確認してください。

- アプリケーション実装コンサルタント・ロール
- 設定データのエクスポート・プロセスの発行
- 設定データのインポート・プロセスの発行
- タスク固有の権限

また、トピック「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照して、いくつかの追加のロールに対するアクセス権が必要かどうかを判断してください。タスク固有の権限の詳細は、Oracle Applications Cloud共通機能セキュリティ・リファレンス・ガイドを参照してください。

## オフリング、機能領域またはタスクのコードの検索

APIを使用してエクスポートまたはインポート・プロセスを開始するには、オフリング、機能領域またはタスクのコードを指定する必要があります。関連コードを検索するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」をクリックします。
2. 「設定および保守」作業領域で、「タスク」パネル・タブから「設定コンテンツの管理」をクリックします。
3. 次の手順に従って必要なコードを取得します。

オフリングまたは機能領域のコードを検索するには

- a. 「設定コンテンツの管理」ページで、「オフリングおよび機能領域の管理」をクリックします。
- b. 「検索」フィールドで、検索するコードに応じて「オフリング」または「機能領域」を選択し、「検索」をクリックします。
- c. 検索結果で、オフリングまたは機能領域の名前をクリックします。
- d. 「基本情報の入力」ページで、「コード」に表示される値を見つけます。
- e. コードをコピーし、必要に応じて使用します。

タスクのコードを検索するには

- a. 「設定コンテンツの管理」ページで、「タスク・リストおよびタスクの管理」をクリックします。
- b. 「検索」フィールドで「タスク」を選択し、「検索」をクリックします。
- c. 検索結果で、タスクの名前をクリックします。
- d. 「タスク」ページで、「コード」に表示される値を見つけます。
- e. コードをコピーし、必要に応じて使用します。

## CSVファイルでの設定データの変更

設定データをCSVファイルに入力する、またはCSVファイルで変更するには、次の手順に従います。

1. ダウンロードしたCSVファイル・パッケージからローカル・フォルダにファイルを抽出します。
2. Microsoft Excelを開き、データのタブをクリックします。
3. 「外部データの取り込み」グループの「テキストから」をクリックします。
4. ダウンロードするCSVファイルにナビゲートして選択します。
5. 「データ型」として「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」を選択し、「次へ」をクリックします。
6. 区切り記号として「コンマ」を選択し、「次へ」をクリックします。
7. すべての列の列データ形式として「テキスト」を選択し、「完了」をクリックします。これで、ファイルを編集できます。

**ヒント:** CSVファイルの入力方法を理解するためにさらに情報が必要な場合は、タスクに関連するヘルプを参照してください。

8. 必要な変更を加えて、CSVを.zipファイルに保存します。CSVファイル・サイズが10MBを超えないようにしてください。これで、ファイルをインポートできます。



# Functional Setup Managerの使用



## 7 設定データのエクスポートおよびインポート

この章の内容は次のとおりです。

- [設定データのエクスポートとインポート: 概要](#)
- [設定データのエクスポートおよびインポート: 説明](#)
- [設定データのレビュー: 説明](#)
- [テスト環境から実稼働環境への設定データの移行: ベスト・プラクティス](#)
- [オフリングまたは機能領域ごとの設定データのエクスポートおよびインポート: 説明](#)
- [オフリングまたは機能領域を使用した設定データのエクスポート: 手順](#)
- [オフリングまたは機能領域を使用した設定データのインポート: 手順](#)
- [オフリングまたは機能領域を使用した設定データの比較: 手順](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポートおよびインポート: 説明](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポート: 手順](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定データのインポート: 手順](#)
- [実装プロジェクトを使用した設定データの比較: 手順](#)
- [設定データ比較結果: 説明](#)
- [設定データ・レポート: 説明](#)
- [設定データ・レポートの生成: 手順](#)
- [エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明](#)
- [設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明](#)
- [設定データのエクスポートおよびインポートに関するFAQ](#)

# 設定データのエクスポートとインポート: 概要

Oracle Applications Cloudの実装では通常、サブスクリプション・ライフサイクルの様々なポイントにおいて、ある環境から別の環境に設定データを移行することが必要になります。たとえば、サブスクライブされたオフリングは、一般的にテスト環境で設定され、適切なテストと検証を経た後、本番環境に移動されます。設定のエクスポートとインポートのプロセスは、設定データをテスト環境から本番環境に移行するのに役立ちます。

設定データを移行するには、2つの異なる方法を使用できます。

- オフリング全体または機能領域をエクスポートおよびインポートします。この方法では、オフリングまたは選択した機能領域と関連付けられたビジネス・オブジェクトの設定データを移行します。
- 実装プロジェクトをエクスポートおよびインポートします。この方法では、実装プロジェクトと関連付けられたビジネス・オブジェクトの設定データを移行します。

**注意:** エクスポートとインポートのプロセスでこれらの異なる方法を組み合わせることはできません。オフリングまたは機能領域をエクスポートすると、その設定データをインポートするために、同じオフリングまたは機能領域を使用する必要があります。同様に、実装プロジェクトをエクスポートすると、その設定データをインポートするために、実装プロジェクト・ベースのインポートを使用する必要があります。

## 設定データのエクスポートおよびインポート: 説明

このトピックでは、設定データのエクスポートおよびインポートに役立つ次の内容について簡単に説明します。

- 設定ビジネス・オブジェクト
- 構成パッケージ
- エクスポートする設定データをフィルタリングするためのスコープ
- 機能オプト・インのインポート
- インポート時の設定データの更新ルール
- 設定データのインポート順序
- エクスポートおよびインポート・プロセス結果

## 設定ビジネス・オブジェクト

設定ビジネス・オブジェクトは、設定データの論理表現です。エクスポートおよびインポート・プロセスでは、ビジネス・オブジェクトとそれらに関連付けられているWebサービスを使用して、適切な設定データのセットをソース環境から読み取り、ターゲット環境に書き込みます。

## 構成パッケージ

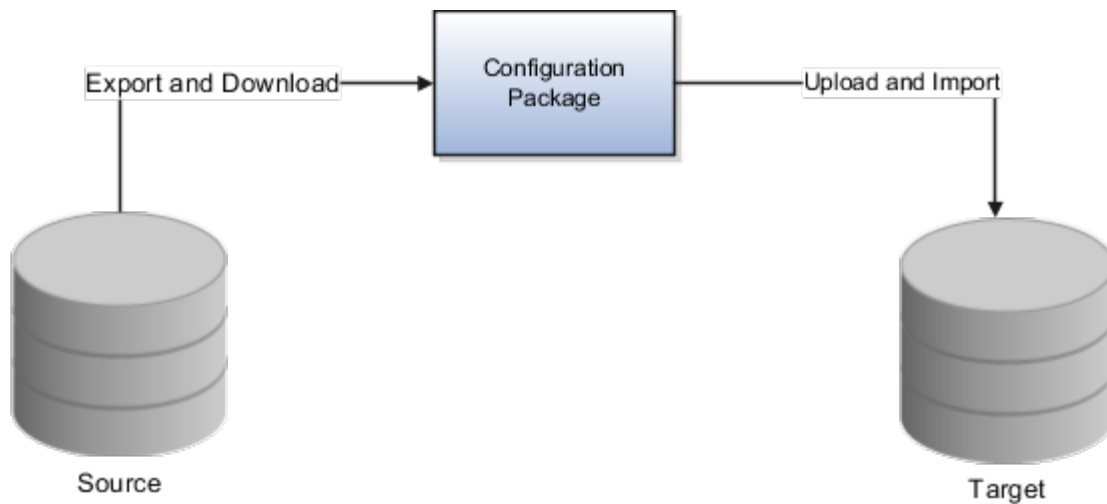
構成パッケージは設定データを環境間で移動するときに使用する媒体です。設定をエクスポートすると、次を含む構成パッケージが作成されます。

- エクスポート・プロセスで使用した実装プロジェクト、オフリングまたは機能領域に基づいた設定タスク

のリスト

- それらのタスクに関連付けられているビジネス・オブジェクト
- それらのビジネス・オブジェクトからエクスポートした設定データ

エクスポート・プロセスが正常に完了すると、構成パッケージを.zipファイルでダウンロードできます。この構成パッケージを設定のインポート先の環境に移動し、ファイルをアップロードして、インポートを実行できます。



## エクスポートする設定データをフィルタリングするためのスコープ

ビジネス・オブジェクトをエクスポートすると、デフォルトでその設定データのすべてがエクスポートされます。オプションで、1つ以上のスコープ値を選択し、ビジネス・オブジェクトの設定データにフィルタをかけ、エクスポートするデータを制限できます。このエクスポート・プロセスから作成される構成パッケージには、指定したスコープ条件に位置する設定データのみが含まれます。

## 機能オプト・インのインポート

オフリングまたは機能領域をエクスポートすると、エクスポート時のソース環境の設定に従って、すべての依存機能領域および依存機能のオプト・イン構成が構成パッケージに含められます。しかし、この構成パッケージをインポートしても、オプト・イン構成はターゲット環境に自動的にインポートされません。

構成パッケージをインポートするときに、ソースのオプト・イン構成をターゲットにインポートすることを選択できます。インポート・プロセスにより、ソースで使用可能になっていてターゲットで使用不可になっている依存機能領域および依存機能が使用可能に設定されます。ターゲット内のその他の依存要素のオプト・イン構成は変更されません。

**注意:** 実装プロジェクトを使用して設定データをエクスポートおよびインポートする場合、この方法は使用できません。

## インポート時の設定データの更新ルール

構成パッケージをターゲット環境にインポートすると、ターゲット内の設定データは次のように変更されます。

- 構成パッケージ内に存在するレコードがターゲットに存在しない場合、レコードが作成されます。
- 構成パッケージ内に存在しないレコードがターゲットに存在する場合、ターゲット内のレコードは変更されません。
  - 注意: ターゲット内に存在するレコードが構成パッケージに存在しない場合、そのレコードは削除されません。必要に応じて、これらのレコードを手動で削除または廃止する必要があります。
- 構成パッケージとターゲットの両方に存在するレコードは、次のようになります。
  - 属性値がすべて同じであれば、ターゲット内のレコードは変更されません。
  - レコードの属性値が異なる場合、ターゲット内のレコードが構成パッケージの値を使用して更新されます。

## 設定データのインポート順序

設定の中には他の設定を前提とするものがあり、それらはデータ依存関係があるといえます。そのため、構成パッケージから設定データをインポートする順序は、データ依存関係に起因するインポート・エラーを防ぐうえで重要です。

オフアリング、機能領域または実装パッケージ内のタスクの順序は、構成パッケージを作成するためのエクスポートで使用した順序ですが、これにより関連するビジネス・オブジェクトのインポート順序、つまり設定データのインポート順序が決定します。ただし次のビジネス・オブジェクトは、デフォルトのタスクベースの順序ルールの例外です。これらは常に、この表内で指定されている順序内のどのビジネス・オブジェクトよりも先にエクスポートおよびインポートされます。

ビジネス・オブジェクト名	ビジネス・オブジェクトID
アプリケーション・タクソノミ	FND_APP_TAXONOMY
アプリケーション参照データセット	FND_APP_REFERENCE_DATA_SET
アプリケーション参照データセット割当	FND_APP_REFERENCE_DATA_SET_ASSIGNMENT
アプリケーション参照	FND_APP_SET_ENABLED_LOOKUP
データ・セキュリティ・ポリシー	FND_APP_DATA_SECURITY_POLICY
アプリケーション・ツリー構造	FND_APP_TREE_STRUCTURE
アプリケーション・ツリー・ラベル	FND_APP_TREE_LABEL
アプリケーション・ツリー	FND_APP_TREE
アプリケーション・フレックス値セット	FND_APP_FLEX_VALUE_SET
アプリケーション付加フレックスフィールド	FND_APP_EXTENSIBLE_FLEXFIELD
アプリケーション拡張可能フレックスフィールド	FND_APP_FLEXFIELD
アプリケーション・キー・フレックスフィールド	FND_APP_KEY_FLEXFIELD

## エクスポートおよびインポート・プロセス結果

設定のエクスポートおよびインポート・プロセスの結果をレビューおよび分析できます。結果にはエクスポートま

たはインポートされた設定データが、ビジネス・オブジェクトが処理された順序で表示されます。エクスポートまたはインポート中に発生したエラーに関する情報も表示されるため、エラーの分析や解決に役立ちます。このプロセス結果の情報はファイルにダウンロードできるため、オフラインでレビューできます。

## 設定データのレビュー: 説明

設定データ・レポートおよび比較レポートを使用して、エクスポートまたはインポートの前後に設定データをレビューできます。

### 設定データ・レポート

エクスポート・プロセスが正常に完了した後に、設定データ・レポートをダウンロードして、エクスポートされたデータをレビューおよび分析できます。レポートを保存して、後から参照することもできます。

エクスポートで処理されたビジネス・オブジェクトごとに1つのレポートが生成され、そのビジネス・オブジェクトからエクスポートされたデータが表示されます。スコープ値を指定してエクスポートするデータにフィルタをかけた場合は、スコープ値に一致するデータのみがレポートに表示されます。

### 比較レポート

比較レポートを使用して、テスト環境と実稼働環境など2つの環境間の設定データの相違をレビューできます。たとえば、実稼働環境でインポート・プロセスを実行する前に、エクスポートした構成パッケージ内の設定データと実稼働環境内の設定データを比較して、意図しない上書きを回避できます。

比較レポートには次の情報が表示されます。

- ソースにのみ存在するデータ
- ターゲットにのみ存在するデータ
- 両方に存在する内容が同一のデータ
- 両方に存在する内容が異なるデータとその相違点

この情報に「設定データのエクスポートおよびインポート: 説明」の「インポート時の設定データの更新ルール」の項で説明したルールを適用して、インポート後に実稼働環境のデータがどのように変化するかを判別できます。

## テスト環境から実稼働環境への設定データの移行: ベスト・プラクティス

テスト環境と実稼働環境間での設定データの移行を最適化するには、次のベスト・プラクティスが役立ちます。

### 移行のための環境準備



エクスポートおよびインポートを実行する際は、ソースおよびターゲット環境のOracle Cloud Applicationsのリビジョンが同一である必要があります。テスト環境と実稼働環境が同じリビジョン・レベルであることを確認したうえで、エクスポートおよびインポートを実行してください。

設定データの中には、エクスポートおよびインポート中に自動的に移行されないものもあります。「オフライン」ページで「設定タスク・リストおよびタスク」レポートを確認し、設定サービスが関連付けられていない設定タスクを確認します。これらのタスクの設定データは代替の方法で実稼働環境に手動で移行する必要があります。

## Gold環境での設定データの管理

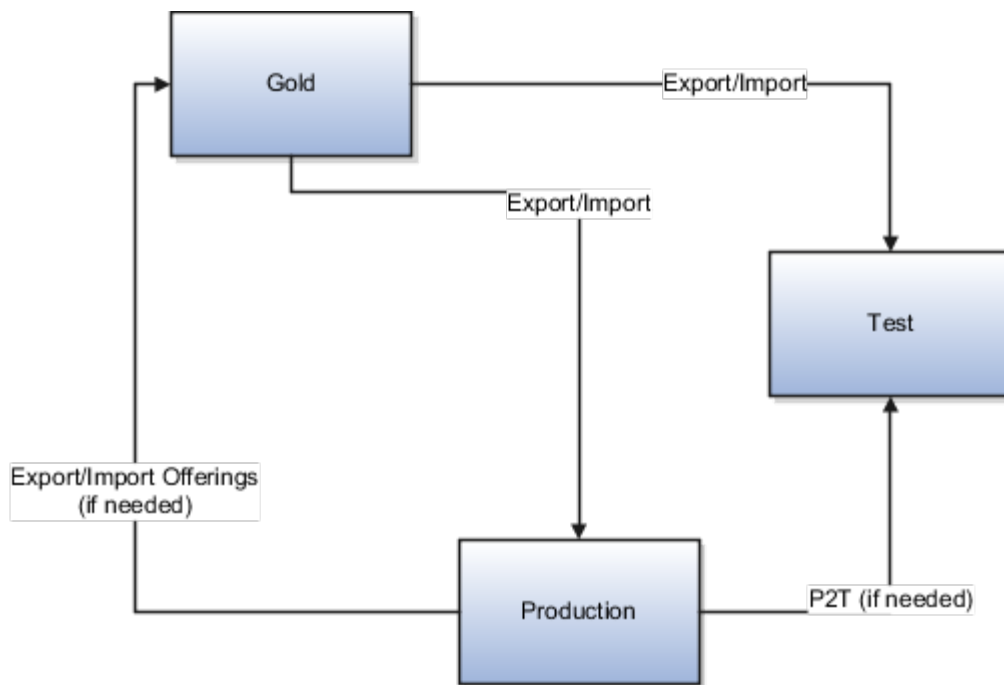
Gold環境を使用して設定データを管理するには、次の手順に従います。

1. Gold環境に設定データを入力します。
2. 検証準備が整ったら、Gold環境から設定データをエクスポートし、テスト環境にインポートします。
3. テスト環境で設定データを検証します。
4. 設定データの更新が必要な場合は、更新値を使用して前述の手順を繰り返します。

**注意:** Gold環境を使用して設定データの記録と管理を行うため、設定データの保守には必ずGold環境を使用します。データをテスト環境で直接更新しないでください。Gold環境が正しい設定データのソースとして機能しなくなります。

5. 設定データの検証が済んだ後、設定データをGold環境からエクスポートして実稼働環境にインポートします。
6. 次のテスト・サイクルでテスト環境を実稼働環境からリフレッシュする必要がある場合は、P2T(実稼働環境からテストへのリフレッシュ・クラウド・サービス)を使用します。
7. Gold環境を実稼働環境の設定データを使用してリフレッシュする必要がある場合は、状況に応じて次の手順に従います。
  - セキュリティや規制の関係でGold環境にトランザクション・データを置けない場合は、環境を再構築します。次に、実稼働環境からオフラインをエクスポートして、Gold環境にインポートします。この手順により、トランザクション・データなしで実稼働環境の設定データがGold環境に移入されず。
  - Gold環境にトランザクション・データを置いて問題ない場合は、P2T(実稼働環境からテストへのリフレッシュ・クラウド・サービス)を使用して、Gold環境を実稼働環境に同期させます。

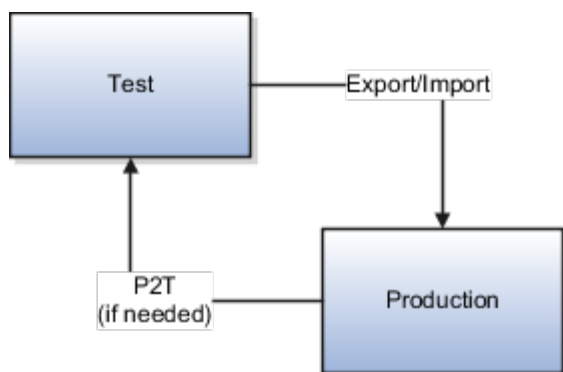
**注意:** ベスト・プラクティスに従う場合は、Gold環境を実稼働環境の設定データを使用してリフレッシュする必要はありません。



## テスト環境での設定データの管理

Gold環境を使用せず、テスト環境で設定データの保守と検証を行う場合は、次の手順に従います。

1. テスト環境に設定データを入力し、検証します。
2. 設定データの検証が済んだ後、設定データをテスト環境からエクスポートして実稼働環境にインポートします。
3. テスト環境を実稼働環境の設定データでリフレッシュする必要がある場合は、**P2T**(実稼働環境からテストへのリフレッシュ・クラウド・サービス)を使用します。



## その他の考慮事項

次に、設定データのエクスポートおよびインポートに関するその他の考慮事項を示します。

1. すべての設定データは入念にテストおよび検証したうえで、実稼働環境にインポートしてください。また、エクスポートおよびインポート・プロセスを利用できない設定データを手動で実稼働環境に入力する場合は、同じデータを**Gold**環境とテスト環境に作成して検証してから、実稼働環境への入力を行ってください。

2. エクスポートおよびインポート・プロセスを利用できない場合を除き、設定データを手動で実稼働環境に入力しないでください。ソース環境(Goldまたはテスト環境)と実稼働環境に手動で設定データを入力し、その後エクスポートおよびインポート・プロセスを使用して同じデータをソース環境から実稼働環境に移行しようとする、インポート・プロセスが失敗する可能性があります。
3. 実装プロジェクトを使用して設定データをエクスポートするときには、一度に1つのオフリングのみエクスポートしてください。詳細は、「実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポートおよびインポート: 説明」を参照してください。
4. エクスポートする設定データを制限する場合はスコープ値を使用します。スコープの利便性が特に発揮されるのは、オフリングの実稼働環境への最初のデプロイメントが済んだ後に、設定データの差分の変更点のみを移行する場合です。
5. エクスポートした構成パッケージ・ファイルをソース管理し、実稼働環境に適用した設定変更の履歴を保持します。
6. インポート・プロセスを開始する前に、構成パッケージ内の設定データと実稼働環境内の設定データの比較を実行することを検討します。インポートによって実稼働環境のデータがどのように変化するかを確認できるため、実稼働環境に意図しない変更が加えられるのを防止できます。詳細は、「設定データ比較結果: 説明」を参照してください。
7. インポート前後に実施する必要があるタスクを必ず実行してください。それらのデータは手動で移行する必要があります。これを怠ると、実稼働環境内の設定データが不完全な状態になり、トランザクション処理時にエラーが発生する原因になります。
8. 複数のオフリングを同時実装して、それらの設定データを実稼働環境に同時にインポートする場合は、次の項で説明する順序でオフリングをインポートすることで、データ依存関係に起因する問題を回避できます。

## 同時移行時のオフリングのインポート順序

この表に、複数のオフリングを同時実装して、それらの設定データを実稼働環境に同時にインポートするときにインポートする必要があるオフリングの順序を示します。

順序	ファミリー	オフリング
1	HCM	ワークフォース配置
2	HCM	報酬管理
3	HCM	ワークフォース開発
4	Financials	Financials
5	Financials	Oracle Fusion Accounting Hub
6	HCM	インセンティブ報酬
7	CRM	顧客データ管理
8	CRM	企業契約
9	CRM	マーケティング
10	CRM	販売
11	Procurement	Procurement

12	Projects	プロジェクト財務管理
13	Projects	プロジェクト実行管理
14	Projects	資金交付管理
15	SCM	資材管理およびロジスティックス
16	SCM	製造およびサプライ・チェーン資材管理
17	SCM	オーダー管理
18	SCM	価格管理
19	SCM	製品管理
20	SCM	サプライ・チェーン財務オーケストレーション
21	SCM	サプライ・チェーン管理会計
22	SCM	バリュー・チェーン・プランニング
23	GRC	リスクおよび管理

## オフリングまたは機能領域ごとの設定データのエクスポートおよびインポート: 説明

この方法では、オフリング全体の設定データをエクスポートしてインポートするか、または1つの機能領域に絞ってプロセスを実行するかを選択できます。この方法では、複雑なデータ依存関係や設定タスクを理解しなくても簡単にエクスポートおよびインポート・プロセスを実行できます。

### オフリングごと

オフリングの設定データを初めてターゲット環境に移行するときには、通常オフリング全体をエクスポートしてインポートします。オフリング内の使用可能になっている機能領域および機能に関連する設定データがエクスポートおよびインポートされます。

### 機能領域ごと

時間の経過とともに機能領域固有の設定データが変わったときに、対象の機能領域のみをエクスポートしてインポートする場合があります。この方法では設定データのエクスポートおよびインポートの範囲を狭めることができるため、オフリング全体を処理するよりも短い時間で移行を完了できます。

特定の機能領域をエクスポートする場合は、その機能領域および使用可能になっている機能の設定データのみがエクスポートおよびインポートされます。

**注意:** エクスポートする機能領域の設定データに前提条件の設定データがある場合は、それらの設定データが

ターゲット環境にあることを確認してから、インポートを開始してください。これを行わなかった場合、インポート・プロセスが失敗する可能性があります。

## 同一レベルのエクスポートおよびインポート


インポート・プロセスは、インポートする構成パッケージ・ファイルを作成したときに使用したオフリングまたは機能領域から開始する必要があります。そうしなかった場合、正しい構成パッケージ・ファイルをアップロードするまでエラー・メッセージが表示されます。構成パッケージ・ファイル内のすべての設定データは、対応する機能領域または機能がターゲット環境で使用可能になっているかどうかに関係なくインポートされます。

## 設定データ比較

エクスポートされた構成パッケージ・ファイルに含まれているオフリングまたは機能領域の設定データを、環境内のオフリングまたは機能領域の設定データと比較できます。設定データの比較はインポート・プロセスにオプションとして含まれており、どの設定データがインポートされるかを比較および分析できます。設定データの比較はインポート・プロセスとは別に実行することもできます。たとえば一定の期間内に環境内の設定データがどのように変化したかを調べる場合など、インポート・プロセスとは別に比較を実行できます。

## オフリングまたは機能領域を使用した設定データのエクスポート: 手順

### ビデオ

 **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、アプリケーション・インスタンスからオフリング設定データをエクスポートして、それを別の環境にインポートする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

この手順では、オフリングまたは機能領域を使用して設定データをエクスポートする方法を示します。設定データをエクスポートするには、アプリケーション実装コンサルタントのロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトをエクスポートする場合は別のロールが追加で必要になります。追加のロールの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

## オフリングまたは機能領域を使用した設定データのエクスポート

オフリングまたは機能領域を使用して設定データをエクスポートするには、次の手順に従います。


1. 「ナビゲータ」 → 「設定および保守」 作業領域をクリックします。
2. 「設定」 ページで、「オフリング」 メニューからエクスポートするオフリングを選択します。

3. 設定データをエクスポートする手順は、次のとおりです。
  - オファリング全体をエクスポートする場合は、ページ・ヘッダーから「処理」メニューを選択して開き、「エクスポート」を選択します。
  - 特定の機能領域をエクスポートする場合は、その機能領域の「処理」メニューを選択して開き、「エクスポート」を選択します。
4. 「新規作成」を選択し、新しいエクスポート・プロセスを作成します。
5. 必要に応じてスコープ値を指定し、エクスポートする設定データにフィルタをかけます。デフォルトでは、エクスポート時に処理されるすべてのビジネス・オブジェクトのすべての設定データがエクスポートされます。これらのビジネス・オブジェクトでスコープがサポートされている場合、スコープ値を選択してエクスポートする設定データにフィルタをかけることができます。1つ以上のビジネス・オブジェクトにスコープ値を指定する手順は、次のとおりです。
  - a. ビジネス・オブジェクトの表から対象のビジネス・オブジェクトを選択し、「追加」をクリックします。関連するビジネス・オブジェクトでスコープがサポートされていない場合、表は空白で表示されます。
  - b. ビジネス・オブジェクトのスコープとして使用する値を検索および選択し、「適用」をクリックします。
  - c. 必要に応じて前述の手順を繰り返し、さらにスコープ値を追加します。終了したら「完了」をクリックします。
6. 「送信」をクリックしてエクスポート・プロセスを開始します。
7. 「処理」メニューから「エクスポート」を選択し、エクスポート・プロセスが完了するまでステータスをモニターします。最新3件のプロセスが、日付の新しい順で表示されます。各プロセスにその時点でのステータスが表示され、すでに完了したプロセスは処理された日時のタイムスタンプが表示されます。
8. 進行中のプロセスがある場合は、ステータスを選択して、プロセスの現時点での進捗状況を確認できます。メッセージが表示され、処理予定のオブジェクトの合計数のうち、いくつかのビジネス・オブジェクトの処理が完了したかが表示されます。「進捗の表示」をクリックして、すでに処理が完了したビジネス・オブジェクトの詳細を確認します。最新情報を表示するには「リフレッシュ」ボタンをクリックします。プロセス結果の詳細は、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明」を参照してください。
9. エクスポート・プロセスの完了後、ステータス・リンクを選択し、「オファリング・データ・エクスポート結果」ページに移動します。
  - プロセスが正常に完了すると、ステータスがダウンロード準備完了になります。
    - a. 「ファイルのダウンロード」をクリックし、構成パッケージ.zipファイルをダウンロードして適切な場所に保存します。このファイルはターゲット環境に設定データをインポートするときを使用します。
    - b. また、エクスポート後タスクのリストも確認します。ここに表示されたタスクは、エクスポートおよびインポート・プロセスでは移行されません。データを手動でターゲット環境に移行する必要があります。
  - また、エラーを伴って完了したプロセスのステータスは「エラー・レビューの準備完了」になります。
    - a. 「ビジネス・オブジェクト」表に、処理中にエラーが発生したすべてのビジネス・オブジェクトが表示されます。プロセス結果の詳細は、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明」を参照してください。
    - b. ページ・ヘッダーから「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックします。ここにはエラーが発生したすべてのビジネス・オブジェクトのエラー・ログが含まれています。または、特定のビジネス・オブジェクトの「処理」→「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックし、そのビジネス・オブジェクト専用のエラー・ログをダウンロードします。


- c. エラーの原因を解決し、新しいエクスポート・プロセスを作成します。

## オフリングまたは機能領域を使用した設定データのインポート: 手順

### オフリング設定のインポート: ビデオ

-  **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、オフリング設定データをアプリケーション・インスタンスにインポートする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明していません。

### インポート中のオフリング設定データの比較: ビデオ

-  **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、インポート中にオフリング設定データを比較する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

## 手順

この手順では、オフリングまたは機能領域の設定データをインポートする方法を説明します。設定データをインポートするには、アプリケーション実装コンサルタントのロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトをインポートする場合は別のロールへのアクセスが追加で必要になります。これらのビジネス・オブジェクトをインポートする場合の追加のロールの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

### オフリングまたは機能領域の設定のインポート

オフリングまたは機能領域の設定データをインポートするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」 → 「設定および保守」作業領域をクリックして、「設定」ページを開きます。
2. 「オフリング」メニューからインポートするオフリングを選択します。
3. インポートする構成パッケージが何をエクスポートして作成されたかに応じて、次の手順を実行します。
  - オフリングの場合、ページ・ヘッダーの「処理」メニューから「インポート」を選択します。
  - 機能領域の場合、機能領域に対応する「処理」メニューから「インポート」を選択します。
4. 「新規作成」を選択し、新しいインポート・プロセスを作成します。
5. インポートする設定データが含まれている構成パッケージを参照して選択します。構成パッケージの詳細を表示して、正しいファイルが選択されていることを確認します。
  - エクスポート時に選択したオフリングまたは機能領域と、インポート・プロセスで選択したオフリングまたは機能領域が異なる場合、エラー・メッセージが表示されます。「更新」ボタンをクリックし、正しいファイルを参照して選択します。



6. 「インポート」オプションを展開します。

- 「インポート前に設定データを比較」オプションを選択することがベスト・プラクティスとされています。このオプションを選択した場合、設定データのインポートに先立ち、インポート・プロセスが自動的に構成パッケージ内の設定データとターゲット環境内の設定データを比較します。

**注意:** インポート前に設定データを比較すると処理時間が長くなります。この手順は「インポート前に設定データを比較」オプションの選択を解除することで省略できます。ただし、この手順を省略すると、ソースとターゲットの設定データの相違を確認できず、インポート・プロセスでターゲット環境内の設定データがどのように変わるかを確認できません。

- 必要に応じて、「機能選択のインポート」オプションを選択して、インポートするオフリングまたは機能領域のオプト・イン構成をインポートします。これにより、オフリングまたは機能領域で使用可能になっている依存機能領域と依存機能がインポートされます。

7. 「送信」をクリックして、インポート・プロセスを開始します。

8. インポート前に手動入力を要する設定データがある場合、警告メッセージが表示されます。このメッセージには、プロセスを送信する前に実行する必要があるタスクが表示されます。

- それらのタスクの設定データがターゲット環境にすでに入力されていることが確認できた場合は、「送信」をクリックします。
- そうでない場合は、「取消」をクリックします。ターゲット環境にその設定データを入力した後に、新しいインポート・プロセスを作成します。

9. 「処理」→「インポート」をクリックして、インポート・プロセスをモニターします。最新3件のプロセスが、日付の新しい順で表示されます。各プロセスにその時点でのステータスが表示され、完了したプロセスは処理された日時のタイムスタンプが表示されます。

•

10. 進行中のプロセスがある場合は、ステータスを選択して、プロセスの現時点での進捗状況を確認できます。メッセージが表示され、処理予定のオブジェクトの合計数のうち、いくつかのビジネス・オブジェクトの処理が完了したかが表示されます。「進捗の表示」をクリックして、すでに処理が完了したビジネス・オブジェクトの詳細を確認します。最新情報を表示するには「リフレッシュ」ボタンをクリックします。プロセス結果の詳細は、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明」を参照してください。

11. 「インポート前に設定データを比較」オプションを選択した場合、比較が完了したときにステータスが「比較レビューの待機中」になります。ステータスを選択し、「オフリング・データ・インポート結果」ページに移動して、比較結果を確認します。比較結果の詳細は、「オフリングまたは機能領域を使用した設定データの比較: 手順」を参照してください。

12. 比較結果に問題がなければ、「オフリング・データ・インポート結果」ページの「引き続きインポート」をクリックしてインポート・プロセスを開始します。

13. 「インポート前に設定データを比較」オプションを選択しなかった場合は、インポート・プロセスが自動的に開始します。

14. プロセスが完了するまでプロセスをモニターします。

15. インポート中に手動のデータ入力が必要になった場合は、プロセスが一時停止し、「手動インポートの待機中」ステータスになります。

- a. ステータスを選択し、「オフリング・データ・インポート結果」ページに移動して、詳細を確認します。
- b. インポート前に手動データ入力が必要なビジネス・オブジェクトを示すリストが表示されます。
- c. リスト内の各ビジネス・オブジェクトで、「タスクに進む」をクリックします。関連するタスクのリストが表示されます。各タスクを選択し、必要なデータを入力します。
- d. リスト内のすべてのビジネス・オブジェクトの設定データを入力したら、「オフリング・データ・



インポート結果」ページから「再開」をクリックしてインポート・プロセスを再開します。

e. 表示される確認メッセージで「確認」をクリックし、インポート・プロセスを再開します。

16. プロセスが完了するまで引き続きモニターします。

17. インポート・プロセスが正常に完了した場合は、次のようにします。

a. 結果を確認して、正しく完了したことを確認します。

b. インポート後のタスクが表示された場合は、それらの設定データが入力されていることを確認します。これを怠ると、設定データが不完全な状態になり、トランザクションを処理するときにエラーが発生します。

18. インポート・プロセスがエラーを伴って完了した場合は、次のようにします。

a. 「ビジネス・オブジェクト」表に、処理中にエラーが発生したすべてのビジネス・オブジェクトが表示されます。プロセス結果の詳細は、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明」を参照してください。

b. ページ・ヘッダー・レベルの「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックします。これには、エラーが発生したすべてのビジネス・オブジェクトのエラー・ログが含まれています。または、特定のビジネス・オブジェクトで「処理」→「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックし、そのビジネス・オブジェクト専用のエラー・ログをダウンロードします。

c. エラーの修正後、新しいインポート・プロセスを作成します。

## オフリングまたは機能領域を使用した設定データの比較: 手順

このトピックでは、インポート・プロセスとは別に設定データを比較する方法を説明します。インポート時の設定データの比較方法は、「オフリングまたは機能領域を使用した設定データのインポート: 手順」を参照してください。

設定データを比較するには、アプリケーション実装コンサルタントのロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトを比較する場合は別のロールへのアクセスが追加が必要になります。追加のロールへのアクセスの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

## オフリングまたは機能領域を使用した設定データの比較

オフリングまたは機能領域を使用して設定データを比較するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、設定データを比較するオフリングを選択します。
3. 比較する構成パッケージが何をエクスポートして作成されたかに応じて、次の手順を実行します。
  - オフリングの場合、ページ・ヘッダーで「処理」メニューを選択して開き、「設定データの比較」→「新規作成」を選択します。
  - 機能領域の場合、機能領域の「処理」メニューを選択して開き、「設定データの比較」→「新規作成」を選択します。
4. 環境内のデータと比較する構成パッケージ・ファイルをアップロードします。構成パッケージ・ファイル

をアップロードするには、次の手順に従います。

- a. 「構成パッケージ」メニューから、「新規アップロード」を選択します。
  - b. 構成パッケージ・ファイルを参照して開きます。
  - c. 必要に応じて、「構成パッケージ詳細」を展開して、正しいファイルが選択されていることを確認します。正しくない場合は、「更新」をクリックし、正しいファイルを参照して選択します。
  - d. 「送信」をクリックして、構成パッケージをアップロードします。
5. 構成パッケージをアップロードすると、設定データ比較プロセスの送信準備は完了です。必要に応じて、プロセスによって割り当てられるデフォルト名を変更します。
  6. 「送信」をクリックして、比較プロセスを開始します。
  7. 「処理」→「設定データの比較」を選択して、プロセスのステータスをモニターします。最新3件のプロセスが、日付の新しい順で表示されます。各プロセスにその時点でのステータスが表示され、完了したプロセスは処理された日時のタイムスタンプが表示されます。
  8. プロセスが完了すると、ステータスが「比較レビューの準備完了」になります。ステータスを選択して「比較プロセス結果」に移動し、結果の詳細を確認します。比較結果の詳細は、「設定データ比較結果: 説明」を参照してください。

## 実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポートおよびインポート: 説明

実装プロジェクトを使用して設定データを入力した場合は、実装プロジェクトを使用して設定データをエクスポートおよびインポートできます。この代替の方法では、実装プロジェクト内のタスクとその順序によりエクスポートおよびインポートする設定ビジネス・オブジェクトのリストが決定され、その順序も指定されます。

**注意:** 実装プロジェクトを使用して設定データを入力した場合でも、オフリングまたは機能領域を使用してこれらの設定データをエクスポートおよびインポートできるため、すべてのデータ依存関係を確実に移行できます。

実装プロジェクトを選択し、構成パッケージを作成して、エクスポートおよびインポートするビジネス・オブジェクトの順序付きリストを生成します。

### 一度に1つのオフリングをエクスポートする

構成パッケージの作成に使用する実装プロジェクトには、複数のオフリングを含めないようにします。インポート・プロセスが失敗する可能性があるためです。

実装プロジェクトに複数のオフリングを含めて設定データを入力した場合、そのプロジェクトを使用して設定データのエクスポートおよびインポートに使用する構成パッケージを作成しないでください。そうではなく、オフリングを1つのみ含めた新しい実装プロジェクトを作成し、それぞれのプロジェクトから構成パッケージを作成します。

### 部分的なデータ移行

オフリングおよび機能領域を選択して実装プロジェクトを作成することがベスト・プラクティスとされていますが、特定のタスクおよびタスク・リストを選択して実装プロジェクトを作成することもあります。このような実装プロジェクトが作成されるのは主に、オフリングのターゲット環境への最初の移行が完了した後に、一部の少量の設定データを更新したり保守したりする場合です。

このような実装プロジェクトを使用して、設定データのエクスポートおよびインポートに使用する構成パッケージを作成する場合は、プロセスを成功させるため次の要件を十分に考慮してください。

- 構成パッケージ内の設定データが他の設定データに依存している場合、それらの前提条件データがターゲット環境にあることを確認したうえで、その構成パッケージを使用したインポート・プロセスを開始してください。または、実装プロジェクトに前提条件タスクを含めて構成パッケージを作成します。
- 実装プロジェクト内のタスク・リストおよびタスクの順序、つまりビジネス・オブジェクトの順序は、設定データの依存関係要件に従っている必要があります。実装プロジェクト内のタスク・リストおよびタスクの順序が正しくない場合、インポート・プロセスが失敗する可能性があります。

## インポート前の設定データの比較

実装プロジェクトを使用して設定データを移行する場合、インポート・プロセスに比較レポートが含まれません。それでも、インポート・プロセスの開始前に、エクスポートした構成パッケージ内の設定データとターゲット環境の既存のデータを比較することがベスト・プラクティスであることに変わりありません。

# 実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポート: 手順

## ビデオ

- 🕒 **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、設定データを構成パッケージにエクスポートする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

## 手順

この手順では、すでに設定を完了した実装プロジェクトの設定データをエクスポートする方法を説明します。設定データをエクスポートするには、アプリケーション実装コンサルタントのロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトをエクスポートする場合は別のロールが追加で必要になります。追加のロールへのアクセスの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

## 実装プロジェクトを使用した設定データのエクスポート

実装プロジェクトを使用して設定データをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」 → 「設定および保守」作業領域をクリックします。


2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「構成パッケージの管理」を選択します。
3. 「構成パッケージの管理」ページで、「処理」メニューから「作成」を選択するか、または「構成パッケージの管理」の「検索結果」表から「作成」アイコンをクリックし、「構成パッケージの作成: 基本情報の入力」ページに移動します。
4. ソース実装プロジェクトで、次の手順を実行します。
  - a. 「名前」メニューから、設定データのエクスポートに使用する実装プロジェクトを選択します。
  - b. エクスポートのデフォルトの選択である「設定タスク・リストおよび設定データ」はそのままにします。
5. 「構成パッケージ詳細」の「名前」、「コード」、「摘要」のデフォルトのフィールド値をそのまま使用するか、または一意の値を割り当てます。
6. 「次」をクリックし、「構成パッケージの作成: エクスポート用のオブジェクトの選択」ページに移動します。
7. 最初の表には設定データがエクスポートされるビジネス・オブジェクトのリストが表示されます。この構成パッケージのソースとして前の手順で選択した実装プロジェクトによって、ビジネス・オブジェクト・リストの内容が決まります。
  - 「タイプ」列は、次のようなビジネス・オブジェクトのエクスポートおよびインポートの動作を示しています。
    - a. エクスポートおよびインポート・サービスを利用できるビジネス・オブジェクトの場合、タイプは「ビジネス・オブジェクト・サービス」になります。
    - b. タイプに「スコープ」が指定されている場合、そのビジネス・オブジェクトを使用してスコープ値を選択し、エクスポートするデータにフィルタをかけることができます。ただし、ビジネス・オブジェクトの設定データ自体をエクスポートすることはできません。
    - c. 設定のエクスポートおよびインポート・プロセスとは別に、代替の方法を使用して手動移行する必要があるビジネス・オブジェクトの設定データについては、タイプが「手動データ・ロード」になります。
  - タイプが「ビジネス・オブジェクト・サービス」のビジネス・オブジェクトには、デフォルトで「エクスポート」列にチェック・マークが付いています。通常、これは選択したままにしておきます。

**注意:** ビジネス・オブジェクトの設定データがソースとターゲットで同じ場合は、これらをエクスポートから除外すると必然的にインポートからも除外されるため、処理時間を短縮できます。ただし、除外した設定データがこの構成パッケージの他の設定データをインポートするための前提条件になっている場合、インポート・プロセスが失敗します。そのため、この方法を選択する場合は十分に注意し、ターゲット環境に前提条件のデータがあることを確認してからインポート・プロセスを開始してください。
8. 最初の表からビジネス・オブジェクトを選択する際、そのビジネス・オブジェクトがスコープをサポートしていてエクスポートする設定データをフィルタリングできる場合は、適切なスコープ値を2つ目の表から選択できます。
  - 選択したビジネス・オブジェクトに事前定義のスコープ値がある場合、デフォルトでそのすべての値がスコープ表に表示されます。表示されたスコープ値を削除することはできますが、他の値を追加することはできません。
  - 選択したビジネス・オブジェクトがスコープをサポートしていて、事前定義の値がない場合は、1つ以上のスコープ値を追加できます。
    - a. スコープ表で「作成」アイコンをクリックします。
    - b. エクスポート・データのスコープとして使用する値を検索および選択し、「適用」をクリックします。

- c. 必要なスコープ値をすべて選択したら、「完了」をクリックします。
9. 「送信」をクリックして設定データのエクスポート・プロセスを送信し、確認メッセージが表示されたら確認します。
  10. 「構成パッケージの管理」で、プロセスが完了するまでモニターします。
    -
  11. 進行中のプロセスがある場合は、ステータスを選択して「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページに移動し、プロセスの現時点での進捗状況を確認できます。最新情報を表示するには「リフレッシュ」ボタンをクリックします。プロセス結果の詳細は、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明」を参照してください。
  12. エクスポート・プロセスの完了後、「ダウンロード」をクリックして構成パッケージをダウンロードします。.zip ファイルを使用してターゲット環境で設定データをインポートします。必要であれば、ステータスを選択して「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページに移動し、結果の詳細を確認します。
  13. エクスポート・プロセスがエラーを伴って終了した場合は、次の手順でエラーを修正します。
    - a. ステータスを選択して「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページに移動し、エラーの詳細を確認します。
    - b. 「処理」→「ダウンロード」→「ログ・ファイル」をクリックし、エラーが発生した設定ビジネス・オブジェクトのログ・ファイルをダウンロードします。
    - c. 必要に応じて、エラーを修正します。データを修正または入力してエラーを修正するには、「タスクに進む」をクリックして対応する設定ページを開きます。
  14. エラーの修正後、新しいエクスポート・プロセスを作成します。

## 実装プロジェクトを使用した設定データのインポート: 手順

### ビデオ

-  **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、設定データを構成パッケージからインポートする方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

この手順では、実装プロジェクトの設定データをインポートする方法を説明します。設定データをインポートするには、アプリケーション実装コンサルタントのロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトをインポートする場合は別のロールへのアクセスが追加で必要になります。これらのビジネス・オブジェクトをインポートする場合の追加のロールの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

### 実装プロジェクトを使用した設定データのインポート

構成パッケージから設定データをインポートするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「構成パッケージの管理」を選択します。
3. 「構成パッケージの管理」ページで、「検索結果」表から「アップロード」ボタンをクリックし、「構成パッケージのアップロード」ページに移動します。
4. 「参照」ボタンをクリックし、インポートする構成パッケージを参照して選択します。
5. 「詳細の取得」ボタンをクリックし、「構成パッケージ詳細」内の情報を確認して、インポート予定の正しい構成パッケージがアップロードされていることを確認します。正しい構成パッケージ・ファイルがアップロードされていない場合は、「更新」ボタンをクリックし、正しいファイルをアップロードして再度確認します。
6. 「送信」をクリックして、アップロード・プロセスを開始します。
7. 「構成パッケージの管理」ページの「検索結果」表に構成パッケージが表示されます。
8. 「検索結果」表から構成パッケージを選択し、「エクスポートおよびインポート・プロセス」表でプロセス詳細を確認します。
9. アップロード・プロセスが完了するまでモニターします。アップロード・プロセスが正常に完了したら、構成パッケージをインポートできます。
10. 「エクスポートおよびインポート・プロセス」表からアップロード・プロセスを選択し、「設定データのインポート」をクリックします。
11. 「設定データのインポート: 基本情報の入力」ページで、「送信」をクリックし、デフォルト設定でインポート・プロセスを開始します。
12. インポート・プロセスを送信する前に、次のような変更を加えることもできます。
  - 「設定データのインポート: 基本情報」ページで、デフォルトのプロセス名と摘要を後から識別しやすいように変更します。
  - デフォルトで、「設定データのインポート: 基本情報」ページの「エラーが発生するたびにプロセスを一時停止」オプションが選択されているため、エラーが発生するたびにインポート・プロセスは一時停止します。これは修正措置を講じる機会があることを意味します。このオプションの選択を解除すると、エラーが発生した場合でもインポート・プロセスを継続させることができます。すべてのエラーの要約がプロセスの完了後に表示されます。

**注意:** エラーが発生するたびにインポート・プロセスが一時停止することがないため、プロセスを終始監視する必要がありません。しかし、依存関係の問題でインポート・プロセスに失敗するビジネス・オブジェクトの数が増える可能性があります。
  - デフォルトで、インポート・プロセスは手動のデータ・ロードを要するタスクの箇所でも一時停止します。この一時停止動作を無効にするには、次の手順に従います。
    - 「次」をクリックし、「設定データのインポート: 外部インポートで一時停止を選択」に移動します。
    - 「タイプ」メニューから「手動データ・ロード」を選択します。
    - 「一時停止」列にチェック・マークがあるタスクは、インポートの再開に手動のデータ・ロードを要するタスクです。手動のデータ・ロードをインポート・プロセスの前または後に実行できる場合は、この列にチェック・マークは表示されません。
    - タスクのリストを確認し、インポート・プロセスを一時停止させないタスクの「一時停止」列の選択を解除します。

**注意:** このオプションは、これらのタスクの設定データがターゲット環境にすでに存在することが確実な場合にのみ使用してください。インポートする設定データの前条件データが



手動データ・ロードを要するデータである場合、インポート時にその前提条件データがないとインポートが失敗します。

- インポート・プロセスは送信後すぐに実行されます。また、インポート・プロセスを特定の時間に開始するようにスケジュールすることもできます。スケジュールの時間を指定するには、「次」をクリックし、「設定データのインポート: スケジュールおよび通知」ページに移動します。「スケジュールの使用」を選択し、開始時間を指定します。
- 13.** インポート・プロセスが完了するまでモニターします。プロセスの状態に従ってプロセスのステータスが変化します。ステータスを選択して「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページに移動し、次のように適切な手順を実行します。
- 進行中: プロセスの進行中に、プロセスの現時点での進捗状況を確認できます。最新情報を表示するには「リフレッシュ」ボタンをクリックします。
  - 正常に完了: プロセスの結果を確認し、設定データを正しく移行するためにインポート後に手動で実行する必要のある設定タスクがあるかどうかを確認します。ある場合は、それらのタスクを実行します。
  - 手動インポートの待機中: インポートを継続するために手動のデータ入力が必要とする設定タスクは、ステータスが「手動インポートの待機中」になります。対応するビジネス・オブジェクトで「タスクに進む」をクリックし、設定ユーザー・インタフェースを開きます。または、設定データを手動で入力します。必要な設定データを入力した後、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページまたは「構成パッケージの管理」ページから「再開」をクリックしてインポート・プロセスを再開します。
  - エラー・レビューの待機中: インポート・プロセスを作成するときに「エラーが発生するたびにプロセスを一時停止」オプションを選択した場合、インポート・プロセスの実行中にエラーが発生すると、このステータスが表示されます。対応するビジネス・オブジェクトで「処理」→「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックし、エラーの詳細を確認します。必要な措置を講じ、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページまたは「構成パッケージの管理」ページから「再開」をクリックします。  
エラーが発生したビジネス・オブジェクトの処理を省略して、次のオブジェクトの処理を進めることもできます。ただし、処理を省略する場合はそのエラーが環境で正しく修正されたこと、およびインポート・プロセスでそのビジネス・オブジェクトの再処理が不要であることを必ず確認してください。
  - エラーありで完了: エラーを伴ってプロセスが完了した場合は、エラーが発生したビジネス・オブジェクトで「処理」→「ログ・ファイルのダウンロード」をクリックし、エラーの詳細を確認します。
- 14.** エラーの修正後、新しいインポート・プロセスを作成します。

## 実装プロジェクトを使用した設定データの比較: 手順

### ビデオ

- **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、構成パッケージを使用して設定データを比較する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

# 手順

このトピックでは、実装プロジェクトを使用して設定データを比較する方法を説明します。設定データを比較するには、アプリケーション実装コンサルタントのロー

ル(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。また、特定のビジネス・オブジェクトを比較する場合は別のロールへのアクセスが追加が必要になります。これらのビジネス・オブジェクトに必要な追加のロールの詳細は、「設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明」を参照してください。

## 実装プロジェクトを使用した設定データの比較

実装プロジェクトを使用して設定データを比較するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、ターゲット環境でエクスポート・プロセスを実行し、設定データを比較する準備をします。ターゲット環境で実装プロジェクトを作成します。この実装プロジェクトのタスク・リストとタスクは、ソース環境でインポート対象の構成パッケージ・ファイルを作成したときの实装プロジェクトと完全に同じになるようにします。この実装プロジェクトを使用して、ターゲット環境でエクスポート・プロセスを実行します。
3. エクスポート・プロセスが完了したら、ソース環境からターゲット環境に構成パッケージ・ファイルをアップロードします。必要に応じて同じプロセスに従って、インポート用の構成パッケージをアップロードします。ただし、インポート・プロセスは実行しません。
4. アップロード処理が正常に完了したら、「タスク」パネル・タブから「エクスポートおよびインポート・プロセスの管理」を選択します。
5. 「エクスポートおよびインポート・プロセスの管理」ページで、「比較」をクリックします。
6. 「比較プロセス」ページで、「新規作成」アイコンを選択し、新しい比較プロセスを作成します。
  - a. ソース環境からアップロードした構成パッケージを「ソース1」として選択します。構成パッケージのバージョンが複数ある場合は、正しい処理日のものを選択し、適切なバージョンのファイルを指定します。
  - b. ターゲット環境でエクスポートを実行して作成した構成パッケージを「ソース2」として選択し、比較の準備をします。ソース1と同じように、ソース2のバージョンがターゲット環境に複数ある場合は、正しい処理日のものを選択し、適切なバージョンを指定します。
  - c. 必要に応じてデフォルトのプロセス名を変更し、「送信」をクリックします。
7. 比較プロセスを送信すると、新しいプロセスが「比較プロセス」ページに表示されます。
8. 「ステータス」列にプロセスのステータスが表示されます。プロセスが完了するまで、ステータスをモニターします。
9. 「ステータス」列が「正常に完了」になったら、プロセス名をクリックし、「構成パッケージ比較」ページに移動して、結果の詳細を確認します。
10. 比較プロセスが正常に完了しなかった場合は、ステータスを選択し、「比較プロセス結果」ページに移動してエラーの詳細を確認します。

## 設定データ比較結果: 説明



設定データ比較結果は、次のセクションで構成されています。

- 比較要約
- 比較詳細
- 失敗したオブジェクト

## 比較要約

このセクションには設定データの比較結果の概要が表示され、次の内容が含まれています。

- 比較したビジネス・オブジェクトの合計数
- 正常に処理されたビジネス・オブジェクトの数
- 失敗したビジネス・オブジェクトがあれば、その数
- 構成パッケージ(ソース)にのみレコードが存在したビジネス・オブジェクトの数
- ターゲット環境にのみレコードが存在したビジネス・オブジェクトの数
- 構成パッケージとターゲット環境の両方にレコードが存在したものの、一部のデータが一致しなかったビジネス・オブジェクトの数

## 比較詳細

このセクションには、ソース環境とターゲット環境との間で正常に比較されたビジネス・オブジェクトのリストが表示されます。各ビジネス・オブジェクトについて、ソースとターゲット環境でデータが一致しなかったレコードの詳細が表示されます。デフォルトで、このリストにはデータが一致しなかったビジネス・オブジェクトのみが含まれます。「表示」フィルタで「すべて」を選択すると、ソースとターゲット環境で設定データが一致しているビジネス・オブジェクトも表示されます。

各ビジネス・オブジェクトに要約表が表示され、そのレコード数が次の分類で表示されます。ゼロ以外の数字はリンクとして表示されます。数字を選択して詳細レポートを開きます。

- **構成1のみにあり:** エクスポートされた構成パッケージ・ファイルにのみ存在し、ターゲット環境には存在しないレコードが表示されます。そのため、この構成パッケージをインポートすると、それらのレコードがターゲット環境に作成されます。
- **両方にあり不一致:** ソースおよびターゲット環境に存在するものの、1つ以上の属性値に相違があるレコードが表示されます。そのため、インポートを実行すると、ターゲット環境内のこれらのレコードが構成パッケージ内の値で更新されます。詳細レポートにはレコードごとに2行表示され、それぞれの行がソースとターゲット環境を表しています。
- **構成2のみにあり:** ターゲット環境にのみ存在し、構成パッケージ・ファイルには存在しないレコードが表示されます。そのため、この構成パッケージをターゲット環境にインポートしても、レコードは変更されることなく残ります。これらのレコードをターゲットから削除する場合は、手動のプロセスを使用する必要があります。
- **両方にあり同一:** ソースとターゲット環境の両方に存在し、属性値がすべて同じレコードが表示されます。この列は、「表示」フィルタが「すべて」に設定されている場合にのみ表示されます。また、このカテゴリではレコードの詳細レポートが提供されないため、要約表内の数字はすべて読取り専用となります。

## 失敗したオブジェクト

エラーの発生により比較レポートで処理できなかったビジネス・オブジェクトがある場合、このセクションにそれらのオブジェクトが表示されます。各オブジェクトの機能詳細アイコンを使用して、エラー・ログ・ファイルを表示または保存できます。

## レポートのダウンロード

「比較詳細」セクションで「ダウンロード」ボタンをクリックすると、レポートをダウンロードして保存できます。

- 「比較レポート」は、処理された各ビジネス・オブジェクトの比較レポートが含まれた.zipファイルを提供します。各ビジネス・オブジェクトについて、該当する「構成1のみにあり」、「両方にあり不一致」および「構成2のみにあり」のレポートが提供されます。
- 「比較結果」レポートは比較プロセスの要約です。ユーザー・インターフェースの「比較詳細」セクションに表示される表を示しています。
- 「比較プロセス結果要約」はプロセス結果の要約です。処理されたすべてのビジネス・オブジェクトのリストが表示され、それらの処理が正常に完了したか、エラーを伴って完了したのかについても表示されます。
- 「比較ログ・ファイル」は、比較プロセス全体の詳細なログです。

## 設定データ・レポート: 説明

オフリング、機能領域または実装プロジェクトを使用してエクスポート・プロセスを実行するたびに、設定データ・レポートが自動的に生成されます。

オフリングまたは機能領域の設定データ・レポートはエクスポート・プロセスを実行しなくても生成できます。ただし実装プロジェクトの場合、このオプションは使用できません。

これらのレポートをダウンロードして、環境内に存在する設定データの確認に使用できます。レポートはエクスポート時点の設定データの状態を示すドキュメントとして保存できるため、後で参照することができます。

## 設定データ・レポートの生成: 手順

### ビデオ

- 🕒 **ビデオを見る:** このビデオ・チュートリアルでは、設定データ・レポートを生成する方法を説明します。このビデオの内容はテキスト・トピックでも説明しています。

### 手順

この手順では、設定データ・レポートを生成する方法を説明します。エクスポートされたすべてのビジネス・オブジェクト、または特定の1つのビジネス・オブジェクトの設定データの統合レポートをダウンロードしてレビュー

できます。

## 設定データ・レポートの生成

設定データ・レポートをダウンロードして確認するには、次の手順に従います。

1. エクスポート・プロセスをすでに実行していて、その結果として生成された設定データ・レポートを使用する場合は、プロセスが正常に完了してからエクスポート・プロセスのステータスを選択し、プロセス結果ページに移動します。
2. オファリングまたは機能領域の設定データ・レポートをエクスポート・プロセスを実行せずに生成するには、次の手順に従います。
  - a. オファリングまたは機能領域で「処理」→「設定データ・レコード」→「新規作成」をクリックします。
  - b. 確認メッセージを了承します。
  - c. プロセスが正常に完了するまで引き続きモニターします。
  - d. ステータスを選択して「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページに移動します。
3. 次のレベルの「設定データ・レポートのダウンロード」を使用します。
  - ページ・レベル: エクスポートされたすべてのビジネス・オブジェクトの設定データが含まれた統合レポートをダウンロードする場合。
  - ビジネス・オブジェクト・レベル: 特定のビジネス・オブジェクトのレポートをダウンロードする場合。
4. .zipファイルを保存して開き、詳細を確認します。統合レポートをダウンロードした場合、その.zipファイルには、エクスポートされた各ビジネス・オブジェクトの.zipファイルが1つずつ含まれています。

## エクスポートおよびインポート・プロセス結果: 説明

エクスポートおよびインポート・プロセス結果は、設定データのエクスポートまたはインポート・プロセスを実行しているときにその進捗をモニターする場合や、プロセスの完了後に結果を確認する場合に便利です。

結果は次の3つのセクションに表示されます。

- 要約
- ビジネス・オブジェクト
- エクスポート後のタスクまたはエクスポート後のタスク

### 要約

このセクションにはエクスポートまたはインポート・プロセスの要約が表示され、次の内容が含まれています。

- エクスポートまたはインポート・プロセスの日時と完了ステータス
- 処理されたビジネス・オブジェクトの合計数
- 正常に処理が完了したビジネス・オブジェクトの数
- エラーを伴って処理が完了したビジネス・オブジェクトの数

- 警告を伴って処理が完了したビジネス・オブジェクトの数
- 手動のエクスポートまたはインポートが必要な設定オブジェクトの数

## ビジネス・オブジェクト

このセクションには、設定データがエクスポートおよびインポートされたビジネス・オブジェクトが表示されます。ビジネス・オブジェクトが処理された順序で結果が表示されます。

プロセスが正常に完了した場合、すべてのビジネス・オブジェクトがリストに表示されます。エラーまたは警告を伴ってプロセスが完了した場合、エラーまたは警告が発生したビジネス・オブジェクトのみがリストに表示されません。

各ビジネス・オブジェクトのステータス詳細を確認します。ここでは処理されたレコードの数が表示されます。ビジネス・オブジェクトのステータス詳細に、そのオブジェクトはすでに処理済であるとの記載があり、メッセージ内に別のオブジェクトへの参照がある場合は、参照されているオブジェクトを見つけて詳細を確認します。

ビジネス・オブジェクトでエラーが発生した場合、ステータス詳細にはエラーに関する詳細も表示され、そのビジネス・オブジェクトをサポートしている製品についての言及があります。このビジネス・オブジェクトに関するバグを登録する場合は、参照されている製品を使用し、対応するログ・ファイルをバグに添付してください。

## エクスポート後のタスクまたはインポート後のタスク

エクスポートまたはインポート・サービスを利用できないために、構成の一部の設定データを自動でエクスポートおよびインポートできない場合があります。これらの設定データは手動エクスポートまたはインポートして、関連するすべての設定データが確実に移行されるようにする必要があります。このセクションには、エクスポートまたはインポート・プロセスの完了後に手動のエクスポートまたはインポートを要する設定データが表示されます。設定データを入力したときと同じ方法で、これらのタスクを実行することをお勧めします。

**注意:** 実装プロジェクトに基づいてエクスポートおよびインポート・プロセスの結果を確認する場合、「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページから「エクスポート後のタスク」または「インポート後のタスク」にアクセスできます。「オブジェクト詳細」表で「外部エクスポート用タスクのレビュー」ボタンをクリックし、「エクスポート後のタスク」および「インポート後のタスク」にアクセスします。

## エクスポートおよびインポート・プロセス・レポート

設定データのエクスポートまたはインポート・プロセスを実行するたび、「プロセス結果要約」、「プロセス結果レポート」および「ログ・ファイル」が自動的に生成されます。

- 「プロセス結果要約」レポートは、エクスポートまたはインポート・プロセスで処理された各設定ビジネス・オブジェクトの要約情報とステータス詳細が表示されるテキスト・ファイルです。
- 「プロセス結果レポート」は、エクスポートまたはインポート・プロセスのステータスと、プロセス中に発生した詳細情報が表示されるテキスト・ファイルです。これらのレポートには、アプリケーションに直接表示されるエクスポートおよびインポート結果と同じ内容が表示されます。
- 「ログ・ファイル」レポートは、エクスポートまたはインポート・プロセスで処理された各設定オブジェクトの詳細情報が表示されるテキスト・ファイルです。

エクスポートおよびインポート・プロセス結果レポートは「処理」メニューからダウンロードできます。または、

「エクスポートおよびインポート・プロセス結果」ページで「ダウンロード」ボタンをクリックし、ダウンロードするレポートを選択します。

## 設定データをエクスポートおよびインポートするための追加のアクセス権: 説明

設定データをエクスポートまたはインポートするには、「アプリケーション実装コンサルタント」ロール(ORA\_ASM\_APPLICATION\_IMPLEMENTATION\_CONSULTANT\_JOB)が必要です。ただし、特定のビジネス・オブジェクトをエクスポートおよびインポートするには追加のロールが必要です。

次の表に、追加のロールが必要なビジネス・オブジェクトと、各ビジネス・オブジェクトに必要なロールを示します。

ビジネス・オブジェクト名	必要なロール名
コーポレート・カード経費タイプ・マッピング・ルール	コーポレート・カード管理者
コーポレート・カード会社アカウント	コーポレート・カード管理者
コーポレート・カード・プログラム	コーポレート・カード管理者
コーポレート・カード・トランザクション・ダウンロード・パラメータ	コーポレート・カード管理者
コーポレート・カード・トランザクション・アップロード・ルール	コーポレート・カード管理者
コーポレート・カード使用限度ルール	コーポレート・カード管理者
銀行取引明細書突合せ許容範囲	資金マネージャ
銀行取引明細書自動突合せ照合ルール・セット	資金マネージャ
銀行取引明細書自動突合せ照合ルール	資金マネージャ
銀行取引明細書トランザクション作成ルール	資金マネージャ
資金トランザクション・タイプ	資金マネージャ
銀行トランザクション・コード	資金マネージャ
銀行取引明細書解析ルール	資金マネージャ
銀行口座	資金マネージャ
銀行支店	資金マネージャ
銀行	資金マネージャ
回収年齢調べバケット	回収マネージャ
回収督促構成	回収マネージャ

回収プリファレンス	回収マネージャ
回収担当	回収マネージャ
経費監査ルール	経費マネージャ
経費監査リスト・ルール	経費マネージャ
経費領収書管理ルール	経費マネージャ
インセンティブ報酬関係者	インセンティブ報酬アプリケーション管理者
部門	人材管理アプリケーション管理者
雇用主	人材管理アプリケーション管理者
給与法定ユニット	人材管理アプリケーション管理者
ディビジョン	人材管理アプリケーション管理者
ジョブ	人材管理アプリケーション管理者
事業所	人材管理アプリケーション管理者
企業情報	人材管理アプリケーション管理者
国別仕様データ・グループ	人材管理アプリケーション管理者
ロール・リストに関連付けられたロール・プロビジョニング	ITセキュリティ・マネージャ
ロール・プロビジョニング・ルール	ITセキュリティ・マネージャ
国セキュリティ・プロファイル国リスト	ITセキュリティ・マネージャ
国セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
HR文書タイプ・セキュリティ・プロファイル・リスト	ITセキュリティ・マネージャ
HR文書タイプ・セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
国別仕様データ・グループ・セキュリティ・プロファイル・リスト	ITセキュリティ・マネージャ
国別仕様データ・グループ・セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
組織セキュリティ・プロファイル分類リスト	ITセキュリティ・マネージャ
組織セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
組織セキュリティ・プロファイル組織リスト	ITセキュリティ・マネージャ
給与セキュリティ・プロファイル支払	ITセキュリティ・マネージャ
給与セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
給与フロー・セキュリティ・プロファイル支払	ITセキュリティ・マネージャ
給与フロー・セキュリティ・プロファイル	ITセキュリティ・マネージャ
個人セキュリティ・プロファイル・マネージャ・タイプ	ITセキュリティ・マネージャ

個人セキュリティ・プロフィール <b>Person</b> タイプ	ITセキュリティ・マネージャ
個人セキュリティ・プロフィール	ITセキュリティ・マネージャ
個人セキュリティ・プロフィール <b>職責スコープ範囲</b>	ITセキュリティ・マネージャ
ポジション・セキュリティ・プロフィール・ポジション・リスト	ITセキュリティ・マネージャ
ポジション・セキュリティ・プロフィール	ITセキュリティ・マネージャ
ポジション・セキュリティ・プロフィール <b>職責スコープ範囲</b>	ITセキュリティ・マネージャ
トランザクション・セキュリティ・プロフィール	ITセキュリティ・マネージャ
トランザクション・セキュリティ・プロフィール・エントリ	ITセキュリティ・マネージャ
トランザクション・セキュリティ・プロフィール・サブカテゴリ	ITセキュリティ・マネージャ
<b>HCM</b> データ・ロール・セキュリティ・プロフィール	ITセキュリティ・マネージャ
<b>HCM</b> データ・ロール	ITセキュリティ・マネージャ
中国元帳オプション	中国用企業財務データ・エクスポート・オプション管理
中国減価償却方法算式	中国用企業財務データ・エクスポート・オプション管理
中国財務情報オプション	中国用企業財務データ・エクスポート・オプション管理
中国 <b>Golden Tax</b> その他のオプション	中国用 <b>Golden Tax</b> 運用管理
中国付加価値税請求書オプション	中国用 <b>Golden Tax</b> 運用管理
中国用 <b>Golden Tax</b> 転送ルール	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国用 <b>Golden Tax</b> 転送ルール明細	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国用 <b>Golden Tax</b> 転送ルール明細トランザクション・タイプ	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国 <b>Golden Tax</b> その他のオプション	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国付加価値税請求書オプション	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国付加価値税請求書割当	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国用 <b>Golden Tax</b> VAT限度	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
中国用 <b>Golden Tax</b> VATタイプ	中国用 <b>Golden Tax</b> 管理職務
イタリアのVAT同意書制限設定	EMEA財務レポート職務

## 設定データのエクスポートおよびインポートに関する

## るFAQ

オフライン設定データのインポート中またはエクスポート中に発生したエラーを表示および印刷するにはどうすればよいですか。

設定データのエクスポートおよびインポートの手順のトピックに記載されている手順に従って、エクスポートまたはインポート・プロセス結果を開きます。プロセス全体または特定のビジネス・オブジェクトのログ・ファイルをダウンロードします。

インポート・プロセスが「ユーザー処理要」のステータスで停止しているのはなぜですか。

特定のデータをインポートする必要があるためプロセスが一時停止している場合は、インポート・プロセスが「ユーザー処理要」に設定されます。この状況は、他のデータに必須としてマークされたビジネス・オブジェクトの設定データを自動エクスポートおよびインポートする標準サービスが使用可能でない場合に発生します。「設定および保守」作業領域の外部の別のアプリケーションまたはプロセスを使用してデータを手動で移行または入力する必要があります。プロセス結果をレビューしてビジネス・オブジェクトを識別し、適切な処理を行って必要なデータを外部的にインポートした後でプロセスを再開してください。

ビジネス・オブジェクトをエクスポートから除外するにはどうすればよいですか。

ビジネス・オブジェクトをエクスポートから除外するには、構成パッケージを作成するときに「エクスポート」列の選択を解除します。ただし、エクスポートしたビジネス・オブジェクトが除外したビジネス・オブジェクトに依存している場合、それらのビジネス・オブジェクトの設定データをインポートするときにエラーが発生する可能性があります。そのため、十分に検討したうえでエクスポート・プロセスからビジネス・オブジェクトを除外してください。

構成パッケージの一部のビジネス・オブジェクトのスコープ値が事前に選択されているのはなぜですか。

設定データを入力するタスクでスコープ値を入力した場合や、そのビジネス・オブジェクトがアプリケーションのコア・タスク(プロファイル・オプションを定義するタスクなど)の1つであり、設定データをフィルタリングするための事前定義パラメータがある場合は、デフォルトでスコープ値が選択されています。エクスポートの目的で必要であれば、これらの事前選択されている値を構成パッケージから削除できます。同様に、エクスポート・プロセスで必要であれば、スコープ値を構成パッケージに追加することもできます。

送信したエクスポートまたはインポート・プロセスを取り消すにはどうすればよいですか。

エクスポートまたはインポート・プロセスは、「エクスポートおよびインポート・プロセスの管理」ページから取



り消すことができます。「エクスポートおよびインポート・プロセスの管理」ページで「処理」メニューから「プロセスの取消」を選択します。プロセスの取消を確認すると、すでに開始しているビジネス・オブジェクトの処理が完了し、残りのビジネス・オブジェクトは処理されません。プロセス・ステータスが「取消済」に変更され、プロセスを再開できなくなります。

## 最近作成した構成パッケージを変更できないのはなぜですか。

構成パッケージはステータスが「定義処理中」の場合にのみ変更できます。構成パッケージをエクスポート用送信したり、インポート用にアップロードしたりすると、ステータスは「ロック済」になります。ステータスが「ロック済」の構成パッケージは変更できません。



[About Oracle](#) | [Contact Us](#) | [Legal Notices](#) | [Terms of Use](#) | [Your Privacy Rights](#) |  
Copyright © 2011, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

# Functional Setup Managerの使用



## 8 追加機能

この章の内容は次のとおりです。

- 設定構成のコピー: 説明
- 設定構成のコピー: 手順
- タスクの検索: 考慮事項
- タスクの検索: 手順
- サードパーティ・アプリケーションの登録: 手順

### 設定構成のコピー: 説明

相互に依存する設定データ構成をコピーして、元のデータ・セットとは少しだけ異なる、相互に依存する新しい設定データ・セットを作成できます。この方法ではデータをより迅速に作成でき、設定要件が複雑だが似ている場合に特に便利です。

たとえば、ビジネス・ユニット構成を作成し、その設定をコピーして、設定データ要件が元のビジネス・ユニットと少しだけ異なる、新しいビジネス・ユニット構成を作成します。

### 構成のコピーの動作

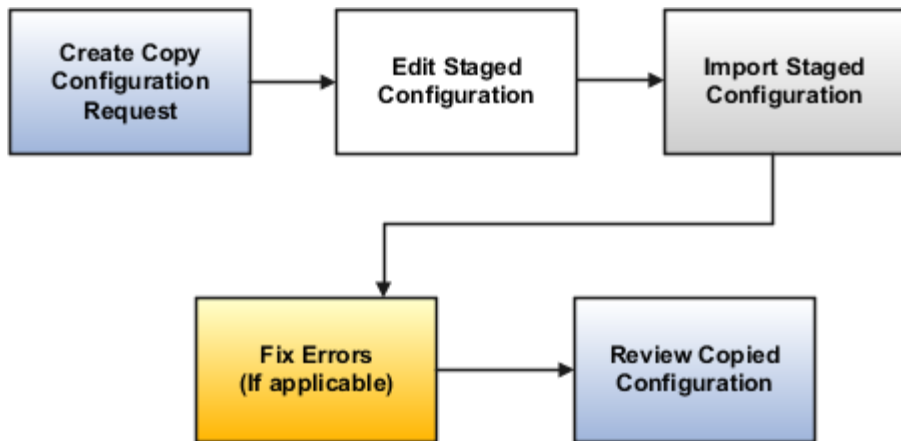
コピー・プロセスでは、既存の設定構成を選択してから、その設定データをステージング領域にコピーします。次に、ステージング領域内の設定データを、作成する新しい設定構成の要件に合わせて変更します。設定をコピーする目的は新しい設定データ・セットを迅速かつ容易に作成することであるため、設定に最小限必要な属性のみ編集できます。

ステージング済設定データの変更が完了したら、インポート・プロセスを送信します。このインポート・プロセスでは、元の設定データをコピーし、必要に応じて、変更内容に基づいてデータを変更して、新しい設定構成を作成

します。

インポート・プロセスが完了したら、新しい設定構成をレビューして、要件が満たされていることを確認してください。必要に応じて、新しい設定のデータをさらに変更することもできます。

次の図に、構成のコピー・プロセスの手順を示します。



## 設定構成のコピー: 手順

この手順では、既存の設定構成をコピーして、同様の別の設定要件に使用する方法を示します。

設定構成をコピーするには、次の権限が必要です。

- 設定データのエクスポート・プロセスの発行(ASM\_SUBMIT\_EXPORT\_SETUP\_DATA\_PROCESS\_PRIV)
- 設定データのインポート・プロセスの発行(ASM\_SUBMIT\_IMPORT\_SETUP\_DATA\_PROCESS\_PRIV)
- タスク固有の権限

タスク固有の権限の詳細情報は、[Oracle Applications Cloud 共通機能セキュリティ・リファレンス・マニュアル](#)を参照してください。

## 設定構成のコピー

設定構成をコピーするには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」→「設定および保守」作業領域をクリックします。
2. 「設定」ページで、「タスク」パネル・タブから「構成のコピー」を選択します。
3. 構成のコピー要求を作成するには、次の手順に従います。
  - a. 構成のコピー要求リージョンで、「処理」メニューから「作成」を選択します。「作成」アイコンをクリックすることもできます。
  - b. 「構成のコピー要求」ページに移動し「構成のコピー」メニューから、コピーする設定構成を選択します。
  - c. コピーの範囲を選択します。たとえば、ビジネス・ユニットの設定構成をコピーする場合は、既存のビジネス・ユニットから、設定をコピーするものを選択する必要があります。

- d. 必要に応じて、デフォルトの要求名を変更できます。
  - e. 「送信」をクリックします。
4. ステージング済構成を編集するには、次の手順に従います。
- a. 「構成のコピー要求」表で、要求の「ステータス」列をモニターします。ステータスが更新されたら、「編集準備完了」をクリックします。
  - b. 表示された属性の値を入力または更新します。これらの属性は、新しい設定構成が機能するために最小限必要な、設定データのセットを表します。
  - c. 変更が完了したら、「保存してクローズ」をクリックします。
5. ステージング済構成をインポートするには、次の手順に従います。
- a. ステータスが更新されたら、「構成のコピー要求」表で、「ステータス」列の「インポート準備完了」をクリックします。
  - b. 前の手順で表示されたのと同じ属性セットが、最終レビュー用に表示されます。元の設定の値を新しい設定の値と比較できます。必要に応じて、「編集」を選択して変更を加えます。
- 注意:** 新しい設定を作成した後に値を編集することはできません。
- c. 「インポート」をクリックします。
  - d. 「構成のコピー要求」表の「ステータス」列に、「インポート進行中」と表示されます。リンクをクリックしてインポート・プロセスをモニターします。更新後の情報を取得するには、「リフレッシュ」アイコンをクリックします。
6. 設定構成のコピー・エラーを修正するには、次の手順に従います。
- a. 「構成のコピー要求」表で、「ステータス」列の「エラー修正準備完了」をクリックします。
  - b. レポートをレビューし、エラーが発生した場所を確認します。レポートには、すべてのビジネス・オブジェクトが処理された順にリストされます。
    - すでに存在するオブジェクトの作成を試みたなど、データ競合が原因でエラーが発生した場合は、「ステージング済構成の編集」を使用してエラーを修正し、インポート・プロセスを再送信します。
    - または、エラーに示されている所有製品を指定してヘルプ・デスクに問題をレポートします。問題をレポートする際には、プロセス・ステータス詳細レポートをダウンロードして添付してください。
7. コピーされた設定構成をレビューするには、「構成のコピー要求」列の「ステータス」列で、「レビュー準備完了」をクリックします。表示される各設定タスクの「タスクに進む」アイコンを選択して、設定データが正しいかどうかを確認できます。

## タスクの検索: 考慮事項

通常は1つまたは2つのタスクに影響する、既存の設定データに対する小規模な変更の場合は、タスクを検索し、そのタスクが表すデータを1回かぎりを入力または更新できます。

設定データをこの方法で管理する場合は、注意が必要です。この方法では、設定データの依存関係や、推奨されるタスク実行順序を確認できません。そのため、エラーが発生する可能性があります。

# タスクの検索: 手順

この手順では、特定のタスクを検索してそのタスクが表すデータを管理する方法を示します。タスク固有の権限がない場合は、この手順を実行できません。タスク固有の権限の詳細情報は、**Oracle Applications Cloud**共通機能セキュリティ・リファレンス・マニュアルを参照してください。

## タスクの検索

特定のタスクを検索するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」 → 「設定および保守」 作業領域をクリックします。
2. 「設定」 ページで、「タスク」 パネル・タブから「検索」 を選択します。
3. 「検索」 ページで、タスク名に完全に一致する、または部分的に一致する文字列を入力し、「検索」 をクリックします。  
入力した文字列は、デフォルトで、タスク、リスト、またはビジネス・オブジェクトの名前と照合されます。
4. 照合基準を変更するには、「タスク、タスク・リスト、ビジネス・オブジェクト」 リンクをクリックします。使用可能なオプションから基準を選択し、「完了」 をクリックします。
5. 検索結果から、次の処理を実行します。
  - タスクと一致した場合は、「名前」列のリンクをクリックして、そのタスクが表す設定データを入力するページに移動します。
  - タスク・リストまたはビジネス・オブジェクトの名前と一致した場合は、「名前」列のリンクをクリックして、そのタスク・リストまたはビジネス・オブジェクトと関連付けられたタスクのリストに移動します。前に説明した手順に従って、リスト内の各タスクの設定データを管理します。
  - 機能領域と一致した場合は、「名前」列のリンクをクリックして、その機能領域の親オフアリングのリストに移動します。該当するオフアリングを選択して、タスク・リージョンのタスク・リストを見つけます。前に説明した手順に従って、リスト内の各タスクの設定データを管理します。
  - オファリング名と一致した場合は、「名前」列のリンクをクリックして、そのオフアリングに移動します。「オフアリング設定の管理: 手順」で説明した手順に従って、オフアリングの設定データを管理します。

### 関連項目

- 既存の設定データを更新するタスクへのアクセス: 手順

# サードパーティ・アプリケーションの登録: 手順

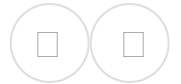
アプリケーションで、サードパーティの**Web**サイトまたはアプリケーションで提供されているデータを参照および使用するには、まずそのアプリケーションを登録する必要があります。登録したら、動的にリンクする方法を構成し、参照を最新の状態に保つことにより、常に最新のコンテンツにアクセスできるようにできます。

# 手順

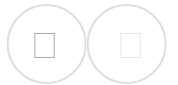
アプリケーションを登録するには、次の手順に従います。

1. 「ナビゲータ」 → 「設定および保守」 をクリックします。
2. 「設定および保守」 作業領域で、「タスク」 パネル・タブから「設定コンテンツの管理」 をクリックします。
3. 「設定コンテンツの管理」 ページで、「サード・パーティ・アプリケーションの管理」 をクリックします。
4. 「サード・パーティ・アプリケーションの管理」 ページで、「処理」 → 「作成」 をクリックします。
5. 関連するフィールドにアプリケーション詳細を入力します。指定した情報が完全かつ正確であることを確認します。たとえば、
  - URLが**http://**または**https://**で始まっている。
  - 選択したセキュリティ・ポリシーに対して正しいアクセス資格証明が指定されている。

注意: 「アプリケーション名」 および 「パートナ名」 は、いったん詳細を保存すると編集できません。
6. 「保存してクローズ」 をクリックします。



# Functional Setup Managerの使用



## 用語集

F

**F**

機能

機能領域に適用可能な、ビジネス機能の微調整を可能にするビジネス・プラクティスまたはビジネス方法です。



[About Oracle](#) | [Contact Us](#) | [Legal Notices](#) | [Terms of Use](#) | [Your Privacy Rights](#) |  
Copyright © 2011, 2018, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.